

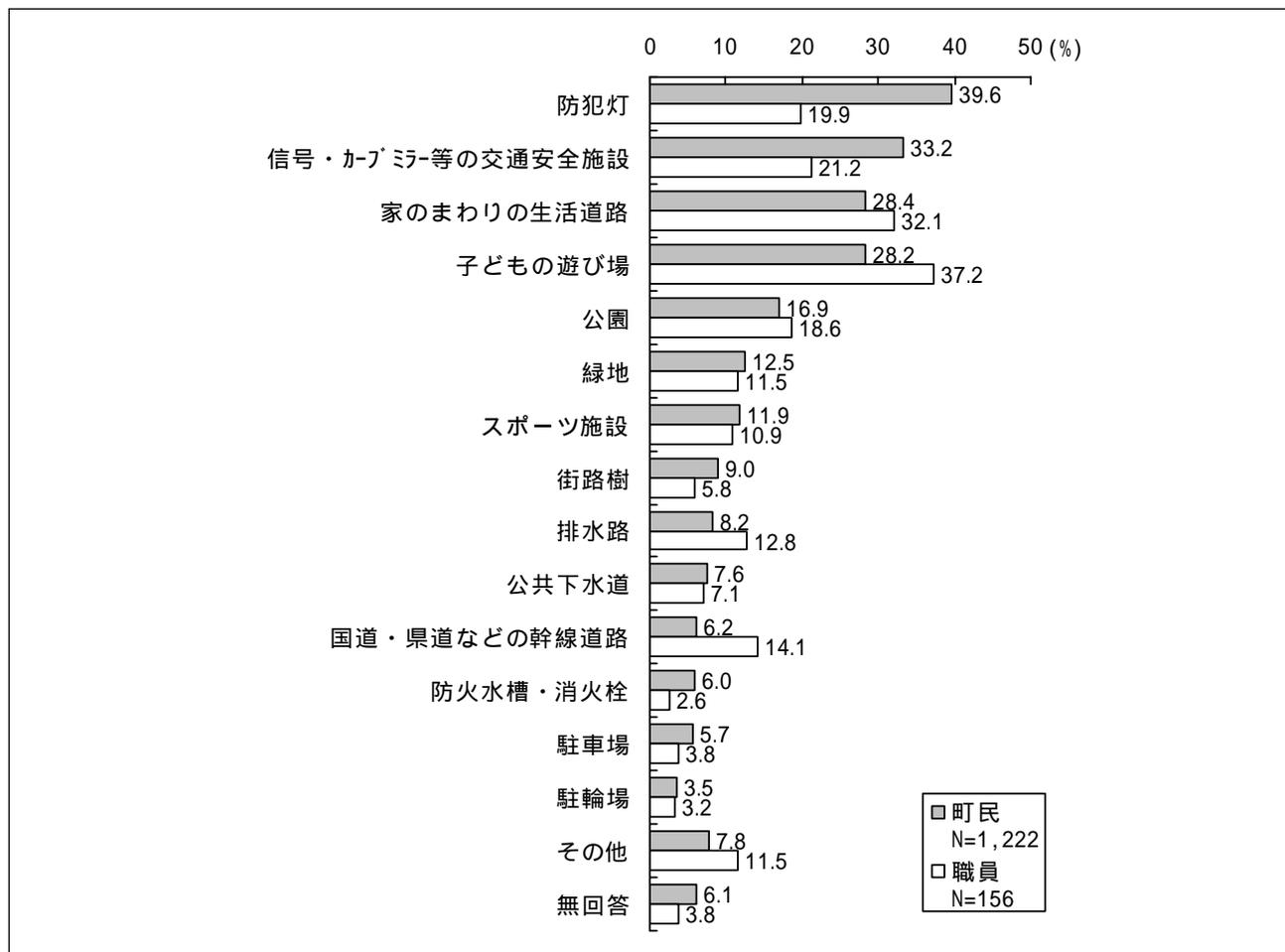
4. 調查結果

4 . 調査結果

暮らしを取り巻く環境について

整備を希望する施設

問 8 次にあげる施設で、あなたが今後、特に整備して欲しいと思われるのはどれですか。



特に整備を希望する施設は、町民アンケートでは「防犯灯」が39.6%と最も高く、以下「信号・カーブミラー等の交通安全施設」(33.2%)、「家のまわりの生活道路」(28.4%)、「子どもの遊び場」(28.2%)となっている。

職員アンケートでは、「子どもの遊び場」が37.2%と最も高く、以下「家のまわりの生活道路」(32.1%)、「信号・カーブミラー等の交通安全施設」(21.2%)、「防犯灯」(19.9%)となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「防犯灯」や「信号・カーブミラー等の交通安全施設」で職員より町民の方が10ポイント以上高くなっている一方、「子どもの遊び場」や「排水路」(町民8.2%、職員12.8%)、「国道・県道などの幹線道路」(町民9.2%、職員14.1%)では町民より職員の方がやや高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	防犯灯 39.6	信号・カーブミラー等の交通安全施設 33.2	家のまわりの生活道路 28.4
性別	男性	N=564	防犯灯 36.3	信号・カーブミラー等の交通安全施設 32.3	家のまわりの生活道路 30.1
	女性	N=654	防犯灯 42.5	信号・カーブミラー等の交通安全施設 34.3	子どもの遊び場 30.3
年齢別	16～19歳	N=32	緑地 40.6	子どもの遊び場 37.5	信号・カーブミラー等の交通安全施設 / 防犯灯 / 家のまわりの生活道路 / スポーツ施設 25.0
	20～29歳	N=113	信号・カーブミラー等の交通安全施設 38.9	防犯灯 30.1	子どもの遊び場 24.8
	30～39歳	N=200	子どもの遊び場 49.0	信号・カーブミラー等の交通安全施設 39.5	防犯灯 38.0
	40～49歳	N=150	防犯灯 42.0	信号・カーブミラー等の交通安全施設 37.3	家のまわりの生活道路 32.0
	50～59歳	N=194	防犯灯 48.5	信号・カーブミラー等の交通安全施設 / 家のまわりの生活道路 34.5	
	60～69歳	N=302	防犯灯 43.7	家のまわりの生活道路 30.5	信号・カーブミラー等の交通安全施設 29.8
	70歳以上	N=231	防犯灯 33.3	家のまわりの生活道路 29.0	信号・カーブミラー等の交通安全施設 26.8
地区別	金田地区	N=761	防犯灯 41.9	信号・カーブミラー等の交通安全施設 33.0	子どもの遊び場 29.0
	曾我地区	N=333	防犯灯 37.2	信号・カーブミラー等の交通安全施設 34.2	子どもの遊び場 29.4
	相和地区	N=121	家のまわりの生活道路 40.5	防犯灯 31.4	信号・カーブミラー等の交通安全施設 30.6

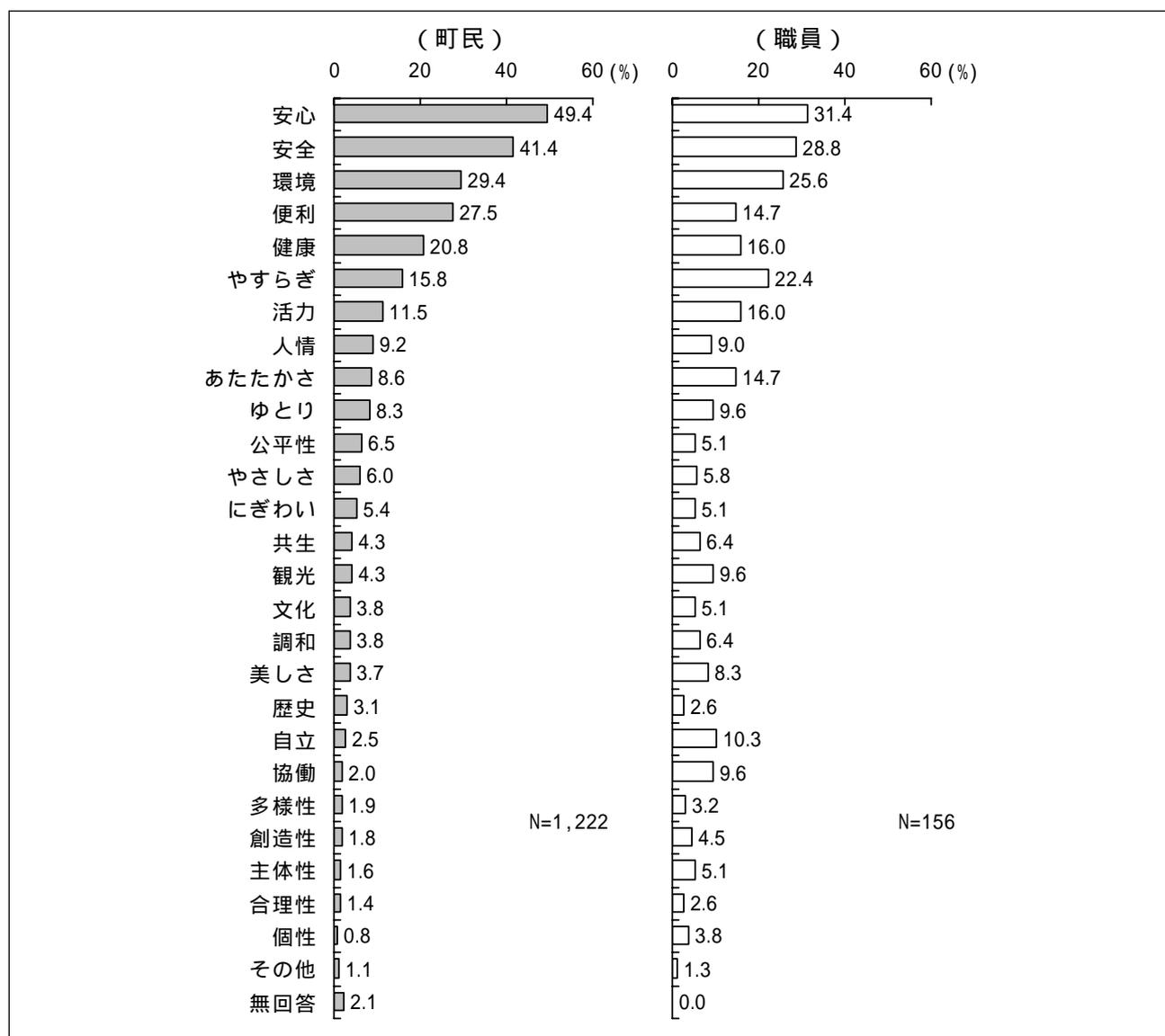
性別にみると、1位「防犯灯」は男性の36.3%に対し、女性は42.5%とやや高くなっている。また、女性の3位は「子どもの遊び場」(30.3%)と男性の「家のまわりの生活道路」(30.1%)とは異なっている。

年齢別にみると、16～19歳では1位「緑地」(40.6%)、2位「子どもの遊び場」(37.5%)、20～29歳では1位「信号・カーブミラー等の交通安全施設」(38.9%)、2位「防犯灯」(30.1%)、3位「子どもの遊び場」(24.8%)、30～39歳では1位「子どもの遊び場」(49.0%)、2位「信号・カーブミラー等の交通安全施設」(39.5%)、3位「防犯灯」(38.0%)と、全体の傾向と順位や項目が異なっている。また、60歳以上では「信号・カーブミラー等の交通安全施設」より「家のまわりの生活道路」の割合が高くなっている。

地区別にみると、金田地区と曾我地区では全体の傾向と同様となっているが、3位は金田地区、曾我地区とも「子どもの遊び場」(金田地区29.0%、曾我地区29.4%)となっている。また、相和地区では1位「家のまわりの生活道路」(40.5%)、2位「防犯灯」(31.4%)、3位「信号・カーブミラー等の交通安全施設」(30.6%)と全体の傾向と順位が異なっている。

まちづくりにおいて大切にしていきたいこと

問9 あなたは、これからの大井町のまちづくりにおいて、どのようなことを大切にしていきたいとお考えですか。



まちづくりにおいて大切にしていきたいことは、町民アンケートでは「安心」が49.4%と最も高く、以下「安全」(41.4%)、「環境」(29.4%)、「便利」(27.5%)となっている。

職員アンケートでは「安心」が31.4%と最も高く、以下「安全」(28.8%)、「環境」(25.6%)、「やすらぎ」(22.4%)となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「便利」は職員の14.7%に比べ町民は27.5%と、12.8ポイント高くなっている。一方、「自立」(町民2.5%、職員10.3%)や「協働」(町民2.0%、職員9.6%)では町民に比べ職員がやや高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	安心 49.4	安全 41.4	環境 29.4
性別	男性	N=564	安心 46.3	安全 39.9	環境 29.4
	女性	N=654	安心 52.4	安全 42.5	便利 29.7
年齢別	16～19歳	N=32	安心 46.9	安全 40.6	便利 / 環境 34.4
	20～29歳	N=113	安心 40.7	便利 38.1	安全 37.2
	30～39歳	N=200	安心 54.0	安全 43.5	便利 35.0
	40～49歳	N=150	安心 51.3	安全 41.3	便利 34.7
	50～59歳	N=194	安心 57.2	安全 44.8	環境 34.5
	60～69歳	N=302	安心 49.0	安全 44.0	環境 37.7
	70歳以上	N=231	安心 42.9	健康 35.9	安全 35.5
地区別	金田地区	N=761	安心 51.6	安全 44.2	環境 28.9
	曽我地区	N=333	安心 44.7	安全 38.1	環境 31.2
	相和地区	N=121	安心 48.8	安全 33.9	便利 32.2

性別にみると、女性の3位は「便利」(29.7%)となっていて、全体の傾向とは項目が異なっている。

年齢別にみると、1位「安心」はすべての年代で共通しているが、20～29歳では2位「便利」(38.1%)、3位「安全」(37.2%)、70歳以上では2位「健康」(35.9%)、3位「安全」(35.5%)、30～39歳と40～49歳では3位「便利」(30～39歳35.0%、40～49歳34.7%)となっていて、各年代で順位や項目が全体の傾向と異なっている。

地区別にみると、1位「安心」と2位「安全」はすべての地区で共通しているが、相和地区では3位「便利」(32.2%)と、全体の傾向や他の地区とは項目が異なっている。

大井町の将来像や今後のまちづくりについて

すばらしいと思うもの（場所）や大切にしたいもの

問 10 あなたは、大井町にある「すばらしいと思うもの(場所)」や「大切にしたいもの」は何だと思えますか。例を参考に3つ以内でお書きください。

(町民)

順位	分類	項目	票数	構成比
1位	自然	酒匂川の清流	267	21.8%
2位	自然	豊かな自然	139	11.4%
3位	生活	挨拶	129	10.6%
4位	生活	ひょうたん祭	120	9.8%
5位	施設	上大井ひょうたん駅	97	7.9%
6位	施設	大井松田IC	94	7.7%
7位	自然	富士山	91	7.4%
8位	施設	東名高速	82	6.7%
9位	自然	田園風景	81	6.6%
10位	施設	第一生命	73	6.0%
11位	自然	富士見塚からの眺望	67	5.5%
12位	施設	国道255号の沿道サービス	54	4.4%
13位	生活	近所づきあい・人情	50	4.1%
14位	施設	公共施設	35	2.9%
15位	歴史	祭囃子	35	2.9%
16位	施設	第一生命からの展望	31	2.5%
17位	生活	ひょうたん	24	2.0%
18位	自然	相和丘陵	23	1.9%
19位	自然	町内から見える富士	22	1.8%
20位	自然	おいしい水	18	1.5%
21位	自然	酒匂川の土手	16	1.3%
22位	施設	いこいの村	14	1.1%
23位	自然	酒匂川の松並木	14	1.1%
24位	生活	静かな環境	13	1.1%
25位	生活	日常生活に便利	11	0.9%
26位	施設	第一生命の桜並木	10	0.8%
27位	自然	根岸山	9	0.7%
28位	自然	おいしい空気	7	0.6%
29位	生活	町民大会	7	0.6%
30位	施設	教育施設	6	0.5%
31位	施設	高い建物がない	3	0.2%
		その他	402	32.9%
		合計	2,044	100.0%

(職員)

順位	分類	項目	票数	構成比
1位	自然	富士山	34	21.8%
2位	自然	田園風景	22	14.1%
3位	自然	酒匂川の清流	20	12.8%
4位	自然	豊かな自然	19	12.2%
5位	自然	富士見塚からの眺望	14	9.0%
6位	自然	相和丘陵	13	8.3%
7位	施設	東名高速	11	7.1%
8位	生活	挨拶	10	6.4%
9位	施設	大井松田 I C	10	6.4%
10位	施設	第一生命	10	6.4%
11位	施設	上大井ひょうたん駅	9	5.8%
12位	生活	ひょうたん祭	9	5.8%
13位	生活	ひょうたん	7	4.5%
14位	生活	近所づきあい・人情	6	3.8%
15位	施設	国道255号の沿道サービス	6	3.8%
16位	施設	いこいの村	4	2.6%
17位	自然	酒匂川の松並木	4	2.6%
18位	自然	根岸山	3	1.9%
19位	施設	教育施設	2	1.3%
20位	施設	第一生命の桜並木	2	1.3%
21位	自然	おいしい水	1	0.6%
22位	施設	公共施設	1	0.6%
23位	自然	酒匂川の土手	1	0.6%
24位	歴史	祭囃子	1	0.6%
25位	自然	おいしい空気	0	0.0%
26位	生活	静かな環境	0	0.0%
27位	施設	第一生命からの展望	0	0.0%
28位	施設	高い建物がない	0	0.0%
29位	生活	町民大会	0	0.0%
30位	生活	日常生活に便利	0	0.0%
31位	自然	町内から見える富士	0	0.0%
		その他	66	42.3%
		合計	285	100.0%

大井町にあるすばらしいと思うものは、町民アンケートで上位 10 項目をみると、自然環境に関する項目が 4 項目、施設環境に関する項目が 4 項目、生活環境に関する項目が 2 項目となっており、自然環境や大井町にある施設を大切に考えていることがうかがわれる。

最も多かったのは「酒匂川の清流」で 267 票、以下「豊かな自然」(139 票)、「挨拶」(129 票)、「ひょうたん祭」(120 票)となっている。

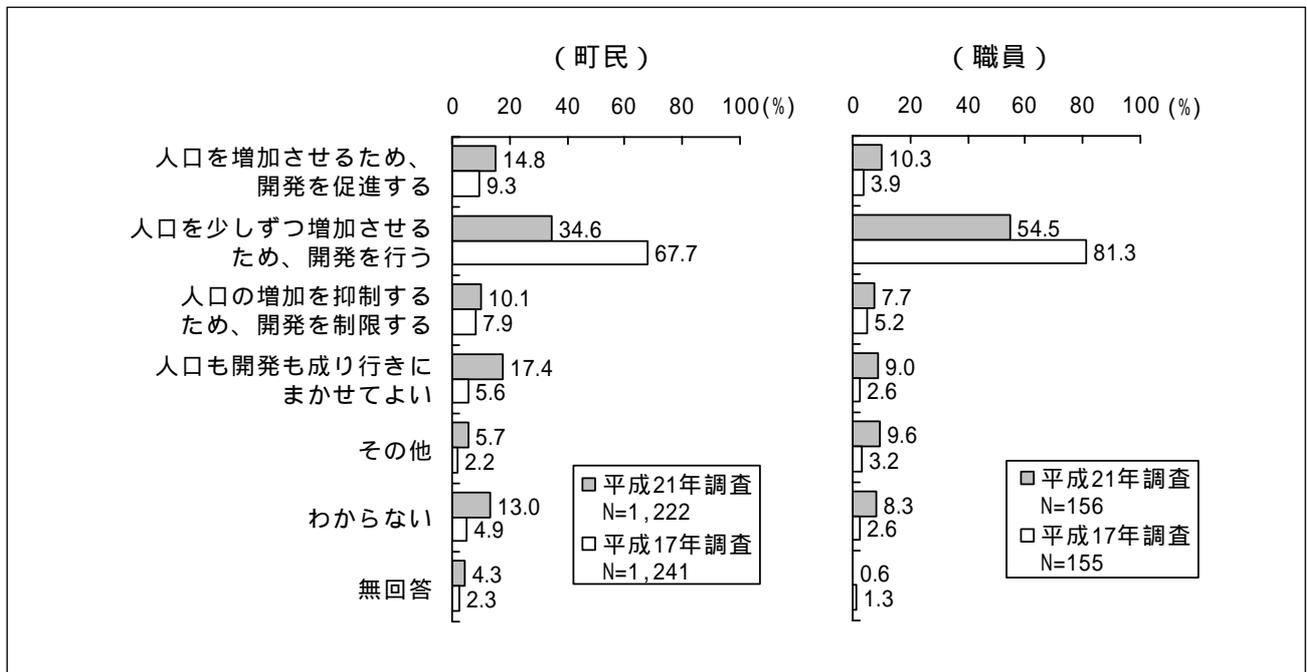
一方、職員アンケートで上位 10 項目をみると、自然環境に関する項目が 6 項目、施設環境に関する項目が 3 項目、生活環境に関する項目が 1 項目となっており、自然環境を大切にしたいと考えていることがうかがわれる。

最も多かったのは、「富士山」で 34 票、以下「田園風景」(22 票)、「酒匂川の清流」(20 票)、「豊かな自然」(19 票)となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、自然環境に関する項目は、町民 4 項目に対し職員 6 項目と、自然環境を大切にしたい意向は職員の方が強いことがうかがわれる。また、上位 10 項目中、「酒匂川の清流」、「豊かな自然」をはじめとする 8 項目が町民と職員で共通しており、すばらしいと思い大切にしたいものの傾向は、町民と職員でほぼ同様であるといえる。

人口と開発の関係についての考え

問 11 大井町の人口は近年大きな変化はありませんが、これからの人口と開発との関係についてあなたの考えに最も近いものは何ですか。



人口と開発の関係についての考えは、町民アンケートでは、「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」が34.6%と最も高く、次いで「人口も開発も成り行きにまかせてよい」が17.4%となっている。平成17年の調査と比較してみると、「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」(34.6%)では、平成17年調査の67.7%に比べて目立って低くなっている。また、「人口も開発も成り行きにまかせてよい」(17.4%)は、平成17年調査の5.6%に比べて10ポイント以上高くなっている。

職員アンケートでは、「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」が54.5%と最も高く、次いで「人口を増加させるため、開発を促進する」が10.3%となっている。平成17年の調査と比較してみると、「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」(54.5%)では、平成17年調査の81.3%に比べて目立って低くなっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」は、町民の34.6%に比べて職員は54.5%と目立って高くなっている。一方、「人口も開発も成り行きにまかせてよい」は、職員の9.0%に比べて町民は17.4%と高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 34.6	人口も開発も成り行きにまかせて よい 17.4	人口を増加させるため、開発を促 進する 14.8
性別	男性	N=564	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 36.3	人口も開発も成り行きにまかせて よい 17.9	人口を増加させるため、開発を促 進する 16.1
	女性	N=654	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 33.2	人口も開発も成り行きにまかせて よい 17.0	人口を増加させるため、開発を促 進する 13.5
年齢別	16～19歳	N=32	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 34.4	人口も開発も成り行きにまかせて よい 28.1	人口を増加させるため、開発を促 進する 12.5
	20～29歳	N=113	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 37.2	人口も開発も成り行きにまかせて よい 22.1	人口を増加させるため、開発を促 進する 15.0
	30～39歳	N=200	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 31.5	人口も開発も成り行きにまかせて よい 18.5	人口を増加させるため、開発を促 進する 12.5
	40～49歳	N=150	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 36.7	人口も開発も成り行きにまかせて よい 19.3	人口の増加を抑制するため、開発 を制限する 14.7
	50～59歳	N=194	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 35.6	人口の増加を抑制するため、開発 を制限する 16.0	人口を増加させるため、開発を促 進する 14.4
	60～69歳	N=302	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 37.4	人口を増加させるため、開発を促 進する 15.6	人口も開発も成り行きにまかせて よい 14.6
	70歳以上	N=231	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 30.3	人口を増加させるため、開発を促 進する 20.8	人口も開発も成り行きにまかせて よい 18.2
地区別	金田地区	N=761	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 35.3	人口も開発も成り行きにまかせて よい 19.3	人口を増加させるため、開発を促 進する 12.9
	曾我地区	N=333	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 30.0	人口を増加させるため、開発を促 進する 17.7	人口も開発も成り行きにまかせて よい 16.2
	相和地区	N=121	人口を少しずつ増加させるため、 開発を行う 43.0	人口を増加させるため、開発を促 進する 18.2	人口も開発も成り行きにまかせて よい 9.1

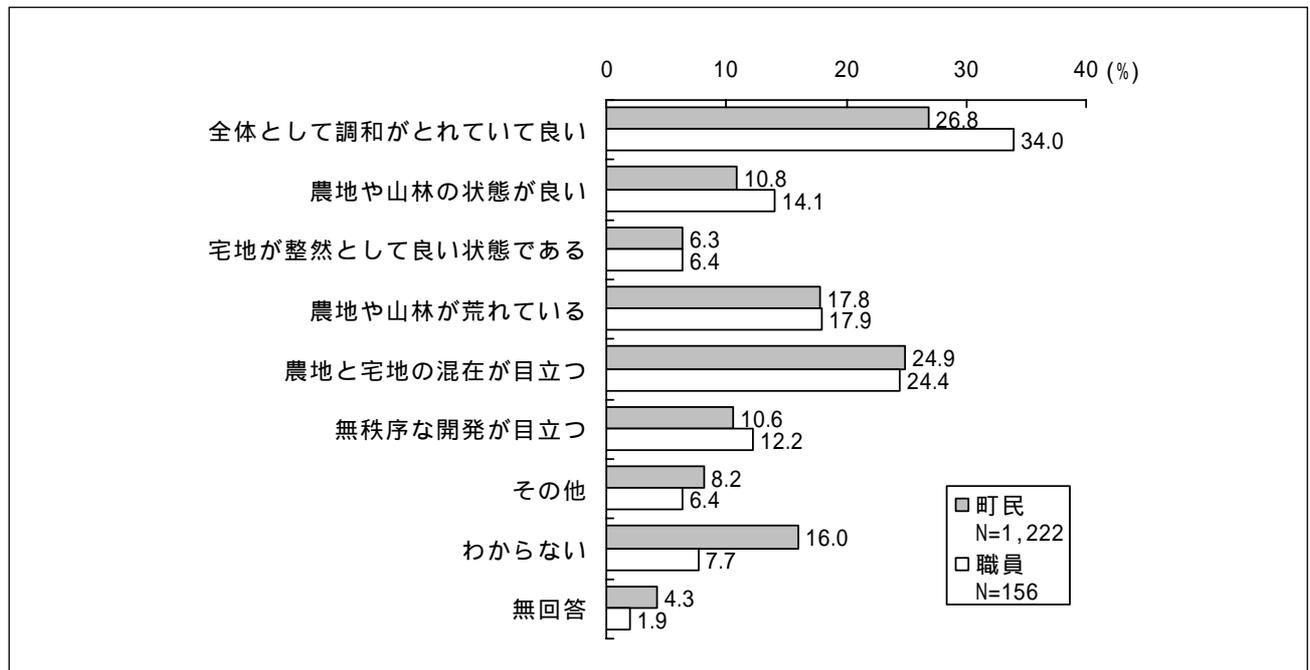
性別にみると、大差はみられない。

年齢別にみると、1位「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」はすべての年代で共通しているが、40～49歳では3位「人口の増加を抑制するため、開発を制限する」(14.7%)、50～59歳では2位「人口の増加を抑制するため、開発を制限する」(16.0%)、3位「人口を増加させるため、開発を促進する」(14.4%)と、全体の傾向とは順位や項目が異なっている。また、60歳以上では2位「人口を増加させるため、開発を促進する」(60～69歳15.6%、70歳以上20.8%)、3位「人口も開発も成り行きにまかせてよい」(60～69歳14.6%、70歳以上18.2%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。

地区別にみると、1位「人口を少しずつ増加させるため、開発を行う」はすべての地区で共通しているが、曾我地区と相和地区では2位「人口を増加させるため、開発を促進する」(曾我地区17.7%、相和地区18.2%)、3位「人口も開発も成り行きにまかせてよい」(曾我地区16.2%、相和地区9.1%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。

土地利用についての考え

問 12 あなたは、大井町の土地利用について、どのようにお考えですか。



土地利用についての考えは、町民アンケートと職員アンケートでほぼ同様の傾向で、「全体として調和がとれていて良い」(町民 26.8%、職員 34.0%) が最も高く、次いで「農地と宅地の混在が目立つ」(町民 24.9%、職員 24.4%)、「農地や山林が荒れている」(町民 17.8%、職員 17.9%) となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「全体として調和がとれていて良い」は、町民の 26.8% に比べて職員が 34.0% とやや高くなっているほかは、大差はみられない。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	全体として調和がとれていて良い 26.8	農地と宅地の混在が目立つ 24.9	農地や山林が荒れている 17.8
性別	男性	N=564	全体として調和がとれていて良い 27.5	農地と宅地の混在が目立つ 26.8	農地や山林が荒れている 20.0
	女性	N=654	全体として調和がとれていて良い 26.5	農地と宅地の混在が目立つ 23.2	農地や山林が荒れている 16.1
年齢別	16～19歳	N=32	農地や山林の状態が良い 31.3	全体として調和がとれていて良い 21.9	農地と宅地の混在が目立つ 18.8
	20～29歳	N=113	全体として調和がとれていて良い 31.0	農地や山林の状態が良い 15.9	農地と宅地の混在が目立つ / 無秩序な開発が目立つ 12.4
	30～39歳	N=200	全体として調和がとれていて良い 29.0	農地と宅地の混在が目立つ 23.5	農地や山林の状態が良い 9.0
	40～49歳	N=150	全体として調和がとれていて良い 30.0	農地と宅地の混在が目立つ 26.0	無秩序な開発が目立つ 16.0
	50～59歳	N=194	農地と宅地の混在が目立つ 29.4	全体として調和がとれていて良い 26.8	農地や山林が荒れている 18.6
	60～69歳	N=302	農地と宅地の混在が目立つ 26.8	全体として調和がとれていて良い 25.8	農地や山林が荒れている 21.9
	70歳以上	N=231	農地や山林が荒れている 31.6	農地と宅地の混在が目立つ 26.0	全体として調和がとれていて良い 22.9
地区別	金田地区	N=761	全体として調和がとれていて良い 29.2	農地と宅地の混在が目立つ 27.7	農地や山林が荒れている 13.1
	曾我地区	N=333	全体として調和がとれていて良い 26.4	農地と宅地の混在が目立つ 22.5	農地や山林が荒れている 15.0
	相和地区	N=121	農地や山林が荒れている 55.4	全体として調和がとれていて良い 14.0	農地と宅地の混在が目立つ 13.2

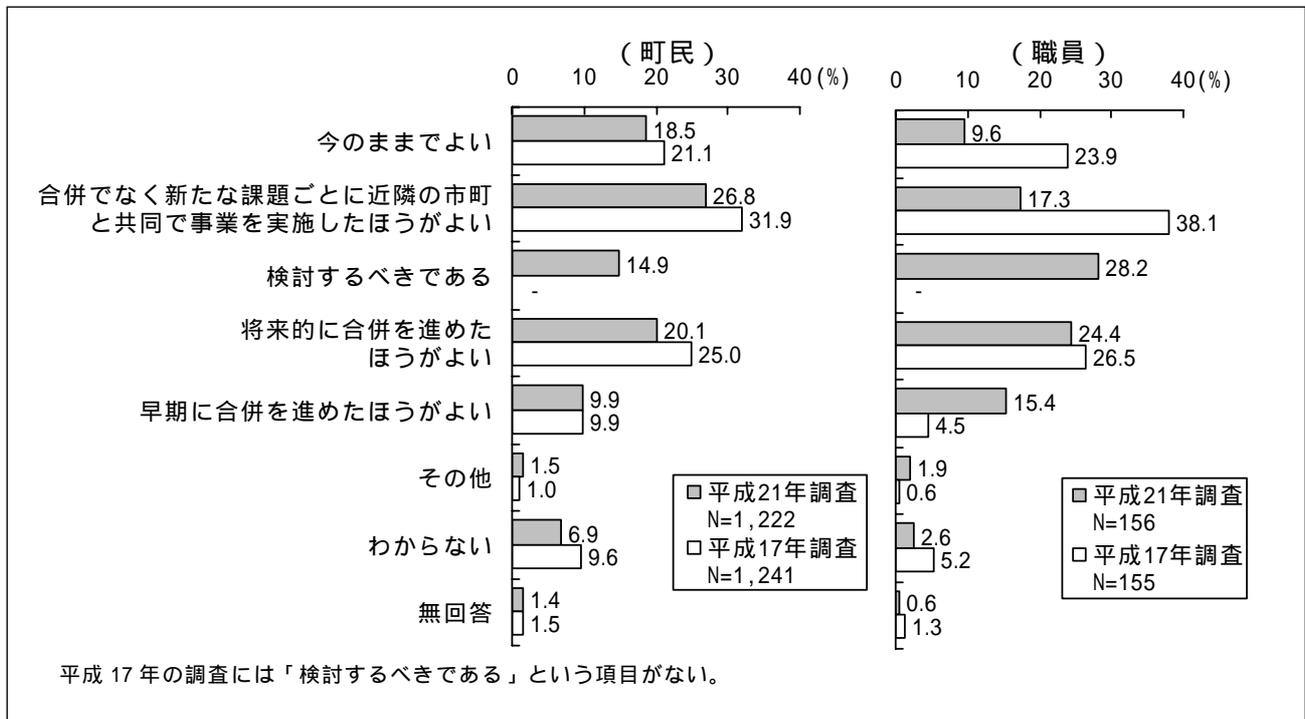
性別にみると、大差はみられない。

年齢別にみると、16～19歳では1位「農地や山林の状態が良い」(31.3%)、50～59歳と60～69歳では1位「農地と宅地の混在が目立つ」(50～59歳29.4%、60～69歳26.8%)、70歳以上では1位「農地や山林が荒れている」(31.6%)となっており、各年代によって2位以下も全体の傾向と順位や項目が異なっている。

地区別にみると、金田地区と曾我地区では全体の傾向と同様となっているが、相和地区では1位「農地や山林が荒れている」(55.4%)、2位「全体として調和がとれていて良い」(14.0%)、3位「農地と宅地の混在が目立つ」(13.2%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。

周辺市町との合併についての考え

問 13 現在、県西地域 2 市 8 町（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）では、各市町の事務事業の比較検討などの研究を行っています。将来、大井町にとっても周辺市町との合併は一つの選択肢となってくると思われますが、あなたは、将来の周辺市町との合併（2 市 8 町にとらわれずに）についてどのようにお考えですか。



周辺市町との合併についての考えは、町民アンケートでは「合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい」が 26.8%と最も高く、次いで「将来的に合併を進めたほうがよい」が 20.1%となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、「合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい」（平成 17 年調査 31.9%、平成 21 年調査 26.8%）や「将来的に合併を進めたほうがよい」（平成 17 年調査 25.0%、平成 21 年調査 20.1%）で、平成 17 年調査に比べわずかに低くなっているほか、大差はみられない。

職員アンケートでは、「検討するべきである」が 28.2%と最も高く、次いで「将来的に合併を進めたほうがよい」が 24.4%となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、「今のままでよい」（平成 17 年調査 23.9%、平成 21 年調査 9.6%）や「合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい」（平成 17 年調査 38.1%、平成 21 年調査 17.3%）では、平成 17 年調査に比べ平成 21 年調査が目立って低くなっている。一方、「早期に合併を進めたほうがよい」（15.4%）では平成 17 年調査の 4.5%に比べて 10.9 ポイント高くなっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「今のままでよい」（町民 18.5%、職員 9.6%）と「合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい」（町民 26.8%、職員 17.3%）ではそれぞれ職員に比べて町民が高くなっている。一方、「検討するべきである」（町民 14.9%、職員 28.2%）や「早期に合併を進めたほうがよい」（町民 9.9%、職員 15.4%）では、町民に比べて職員が高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 26.8	将来的に合併を進めたほうがよい 20.1	今のままでよい 18.5
性別	男性	N=564	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 23.4	将来的に合併を進めたほうがよい 22.9	今のままでよい 17.2
	女性	N=654	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 29.8	今のままでよい 19.6	将来的に合併を進めたほうがよい 17.6
年齢別	16～19歳	N=32	今のままでよい 37.5	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 28.1	検討するべきである / 将来的に合併を進めたほうがよい 9.4
	20～29歳	N=113	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 29.2	今のままでよい 26.5	将来的に合併を進めたほうがよい 16.8
	30～39歳	N=200	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 27.5	今のままでよい 18.0	将来的に合併を進めたほうがよい 17.0
	40～49歳	N=150	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 27.3	将来的に合併を進めたほうがよい 18.7	検討するべきである 16.0
	50～59歳	N=194	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 32.0	将来的に合併を進めたほうがよい 22.2	検討するべきである 16.5
	60～69歳	N=302	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 28.5	将来的に合併を進めたほうがよい 21.5	検討するべきである 16.6
	70歳以上	N=231	将来的に合併を進めたほうがよい 23.4	今のままでよい 22.1	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 18.2
地区別	金田地区	N=761	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 28.6	将来的に合併を進めたほうがよい 19.3	今のままでよい 18.9
	曾我地区	N=333	将来的に合併を進めたほうがよい 22.8	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 21.9	今のままでよい 15.6
	相和地区	N=121	合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい 29.8	今のままでよい 23.1	検討するべきである 19.0

性別にみると、男性では全体の傾向と同様となっているが、女性では2位「今のままでよい」(19.6%)、3位「将来的に合併を進めたほうがよい」(17.6%)となっており、全体の傾向と順位が異なっている。

年齢別にみると、16～19歳では1位「今のままでよい」(37.5%)、20～29歳と30～39歳では2位「今のままでよい」(20～29歳26.5%、30～39歳18.0%)、40～49歳、50～59歳、60～69歳では3位「検討するべきである」(40～49歳16.0%、50～59歳16.5%、60～69歳16.6%)、70歳以上では1位「将来的に合併を進めたほうがよい」(23.4%)、2位「今のままでよい」(22.1%)、3位「合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい」(18.2%)となっており、各年代によって全体の傾向と順位が異なる。

地区別にみると、曾我地区では1位「将来的に合併を進めたほうがよい」(22.8%)、2位「合併でなく新たな課題ごとに近隣の市町と共同で事業を実施したほうがよい」(21.9%)、3位「今のままでよい」(15.6%)となっており、全体の傾向と順位が異なっている。

市町村合併についての考え

問 14 あなたは、市町村合併についてどのように考えているかご意見がありましたらご記入ください。

市町村合併についての考えは、町民アンケートでは「合併するとどうなるのか」、「メリット・デメリットを町民の目線で説明して欲しい」など、合併に対する情報の提供を要望する意見が多く出されている。問 13 の回答の傾向と同様に、現状維持・合併反対の意見が多くなっているが、「将来的に合併は仕方ない」や、「生活がよくなるなら合併してもよい」といった意見も出されている。

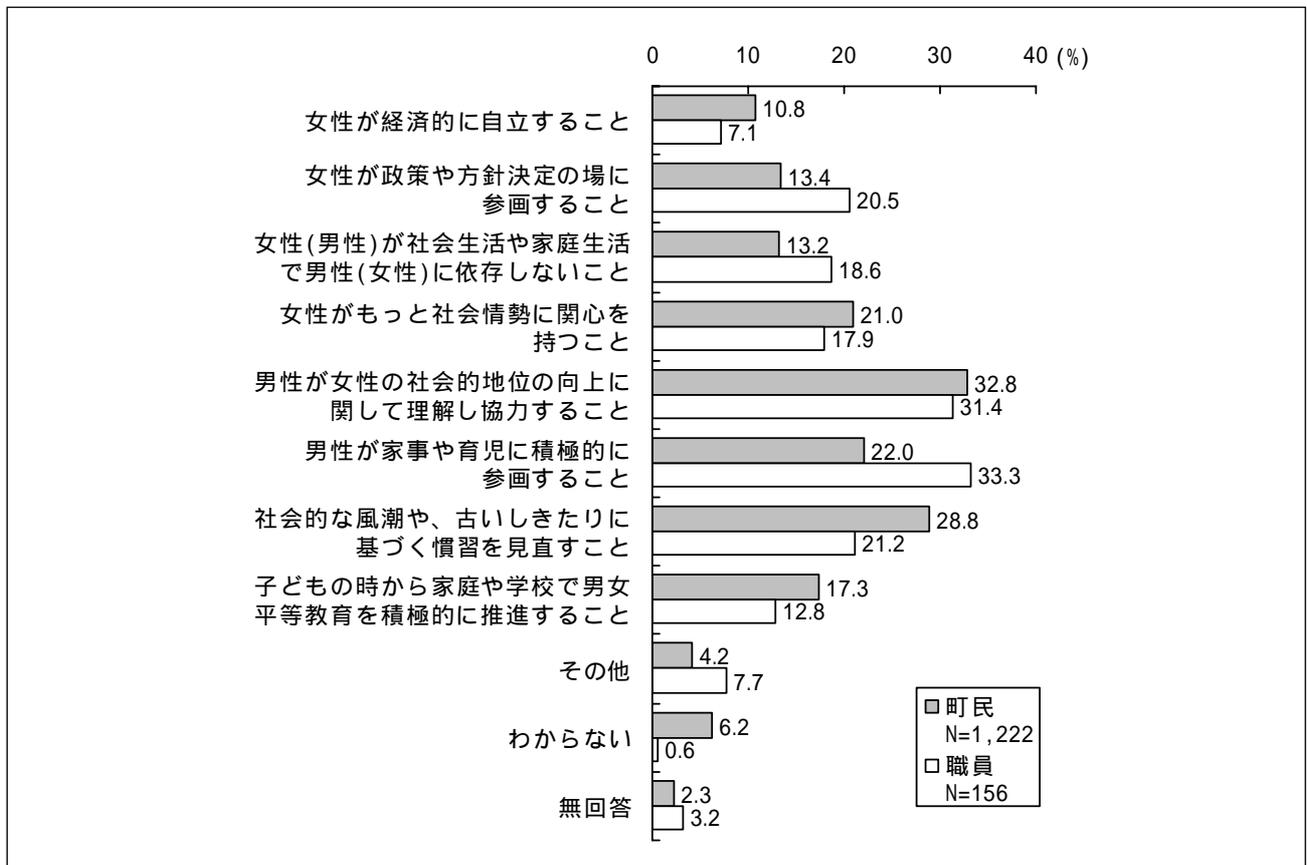
職員アンケートでは、合併に賛成する意見が現状維持・合併反対の意見を上回っている。

合併賛成意見では、「財政の健全化」、「効率的な行政サービスの提供」といった意見が多く、反対意見としては、「細かいサービスができなくなる」、「町の歴史や文化が失われる」といった意見が多く挙げられている。

詳細結果は資料編を参照

男女共同参画社会の実現のために必要と思われること

問 15 男女の地位が平等で、あらゆる分野において参画する社会（男女共同参画社会）を実現するために、あなたはどのようなことが必要だと思われますか。



男女共同参画社会の実現のために必要と思われることは、町民アンケートでは「男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること」が 32.8%と最も高く、次いで「社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと」が 28.8%、「男性が家事や育児に積極的に参画すること」が 22.0%となっている。

職員アンケートでは、「男性が家事や育児に積極的に参画すること」が 33.3%と最も高く、次いで「男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること」が 31.4%、「社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと」が 21.2%となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「男性が家事や育児に積極的に参画すること」では町民の 22.0%に比べて職員は 33.3%と高くなっている一方、「社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと」では、職員の 21.2%に比べて町民は 28.8%とやや高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 32.8	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 28.8	男性が家事や育児に積極的に参画すること 22.0
性別	男性	N=564	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 33.9	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 28.4	男性が家事や育児に積極的に参画すること 20.9
	女性	N=654	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 31.8	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 29.1	女性がもっと社会情勢に関心を持つこと 24.3
年齢別	16～19歳	N=32	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 34.4	子どもの時から家庭や学校で男女平等教育を積極的に推進すること 28.1	女性（男性）が社会生活や家庭生活中で男性（女性）に依存しないこと 25.0
	20～29歳	N=113	男性が家事や育児に積極的に参画すること 42.5	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 34.5	女性（男性）が社会生活や家庭生活中で男性（女性）に依存しないこと 20.4
	30～39歳	N=200	男性が家事や育児に積極的に参画すること 36.5	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 31.5	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 30.5
	40～49歳	N=150	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 32.0	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 26.7	男性が家事や育児に積極的に参画すること 25.3
	50～59歳	N=194	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 38.1	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 24.7	女性がもっと社会情勢に関心を持つこと 23.2
	60～69歳	N=302	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 36.4	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 33.8	女性がもっと社会情勢に関心を持つこと 30.1
	70歳以上	N=231	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 32.0	女性がもっと社会情勢に関心を持つこと 29.9	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 24.7
地区別	金田地区	N=761	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 32.5	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 29.0	男性が家事や育児に積極的に参画すること 22.9
	曽我地区	N=333	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 33.9	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 28.8	女性がもっと社会情勢に関心を持つこと 20.7
	相和地区	N=121	男性が女性の社会的地位の向上に関して理解し協力すること 33.1	社会的な風潮や、古いしきたりに基づく慣習を見直すこと 25.6	男性が家事や育児に積極的に参画すること 23.1

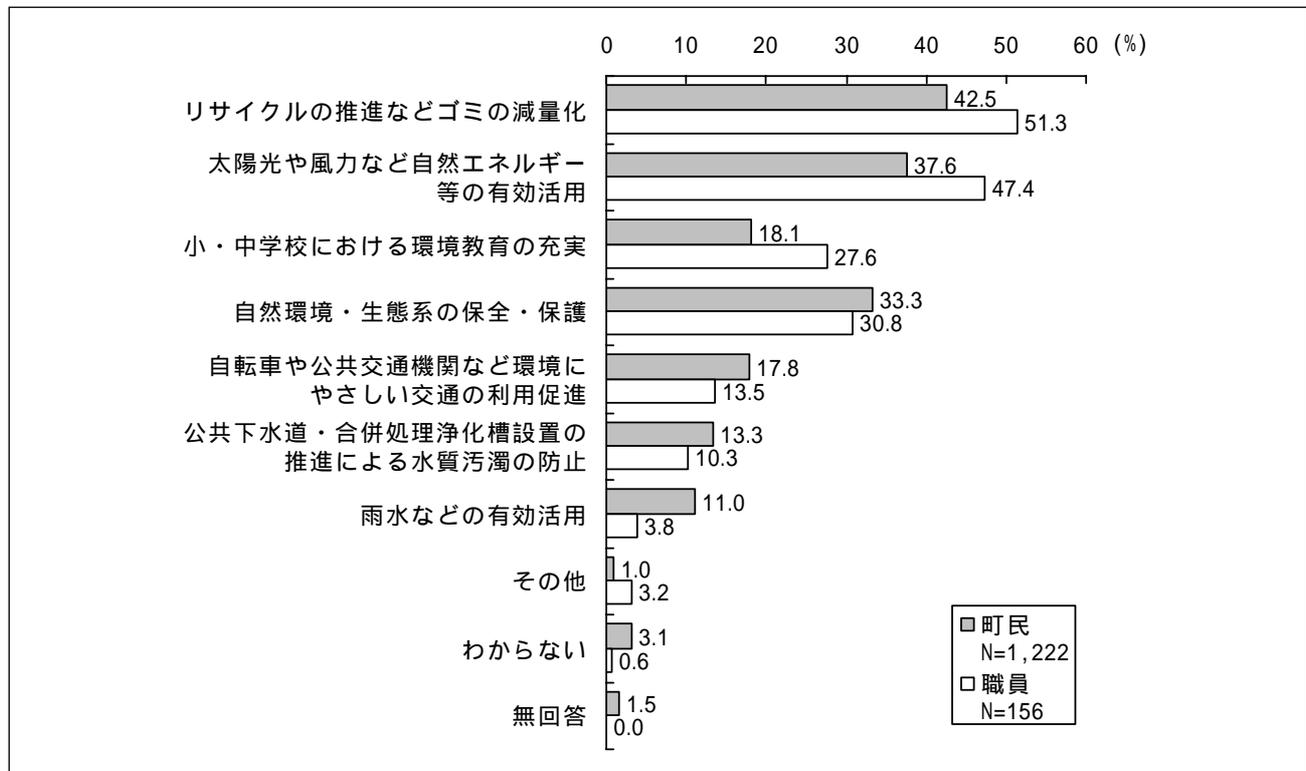
性別にみると、女性の3位は「女性がもっと社会情勢に関心を持つこと」(24.3%)となっており、全体の傾向とは異なっている。

年齢別にみると、16～19歳の2位「子どもの時から家庭や学校で男女平等教育を積極的に推進すること」(28.1%)や20～29歳と30～39歳の1位「男性が家事や育児に積極的に参画すること」(20～29歳42.5%、30～39歳36.5%)、16～19歳と20～29歳の3位「女性（男性）が社会生活や家庭生活中で男性（女性）に依存しないこと」(16～19歳25.0%、20～29歳20.4%)、70歳以上の2位「女性がもっと社会情勢に関心を持つこと」(29.9%)などは、全体の傾向と順位や項目が異なっており、特徴的である。

地区別にみると、曽我地区の3位「女性がもっと社会情勢に関心を持つこと」(20.7%)は全体の傾向とは異なっている。

地球環境問題に対して町で重点的に取り組むべきこと

問 16 あなたは、地球環境問題に対し、今後、大井町ではどのようなことを重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。



地球環境問題に対して町で重点的に取り組むべきことは、町民アンケートと職員アンケートでほぼ同様の傾向となっており、「リサイクルの推進などゴミの減量化」(町民 42.5%、職員 51.3%) が最も高く、次いで「太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用」(町民 37.6%、職員 47.4%)、「自然環境・生態系の保全・保護」(町民 33.3%、職員 30.8%) となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「リサイクルの推進などゴミの減量化」や「太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用」、「小・中学校における環境教育の充実」(町民 18.1%、職員 27.6%)などは、町民に比べ職員が 10 ポイント近く上回っている。一方、「雨水などの有効活用」は、職員の 3.8% に比べて町民は 11.0% とやや高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	リサイクルの推進などゴミの減量化 42.5	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 37.6	自然環境・生態系の保全・保護 33.3
性別	男性	N=564	リサイクルの推進などゴミの減量化 42.7	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 38.8	自然環境・生態系の保全・保護 36.5
	女性	N=654	リサイクルの推進などゴミの減量化 42.2	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 36.5	自然環境・生態系の保全・保護 30.6
年齢別	16～19歳	N=32	リサイクルの推進などゴミの減量化 53.1	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 31.3	自然環境・生態系の保全・保護 28.1
	20～29歳	N=113	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 44.2	リサイクルの推進などゴミの減量化 38.1	自然環境・生態系の保全・保護 30.1
	30～39歳	N=200	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 43.5	自然環境・生態系の保全・保護 37.5	リサイクルの推進などゴミの減量化 34.5
	40～49歳	N=150	リサイクルの推進などゴミの減量化 48.0	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 44.0	自然環境・生態系の保全・保護 30.0
	50～59歳	N=194	リサイクルの推進などゴミの減量化 47.4	自然環境・生態系の保全・保護 39.7	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 39.2
	60～69歳	N=302	リサイクルの推進などゴミの減量化 40.4	自然環境・生態系の保全・保護 36.4	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 33.4
	70歳以上	N=231	リサイクルの推進などゴミの減量化 45.0	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 29.9	自然環境・生態系の保全・保護 24.7
地区別	金田地区	N=761	リサイクルの推進などゴミの減量化 41.9	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 36.8	自然環境・生態系の保全・保護 33.9
	曾我地区	N=333	リサイクルの推進などゴミの減量化 43.5	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 39.6	自然環境・生態系の保全・保護 32.1
	相和地区	N=121	リサイクルの推進などゴミの減量化 43.8	太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用 36.4	自然環境・生態系の保全・保護 33.9

性別にみると、3位「自然環境・生態系の保全・保護」では、女性の30.6%に比べて男性は36.5%とやや高くなっている。

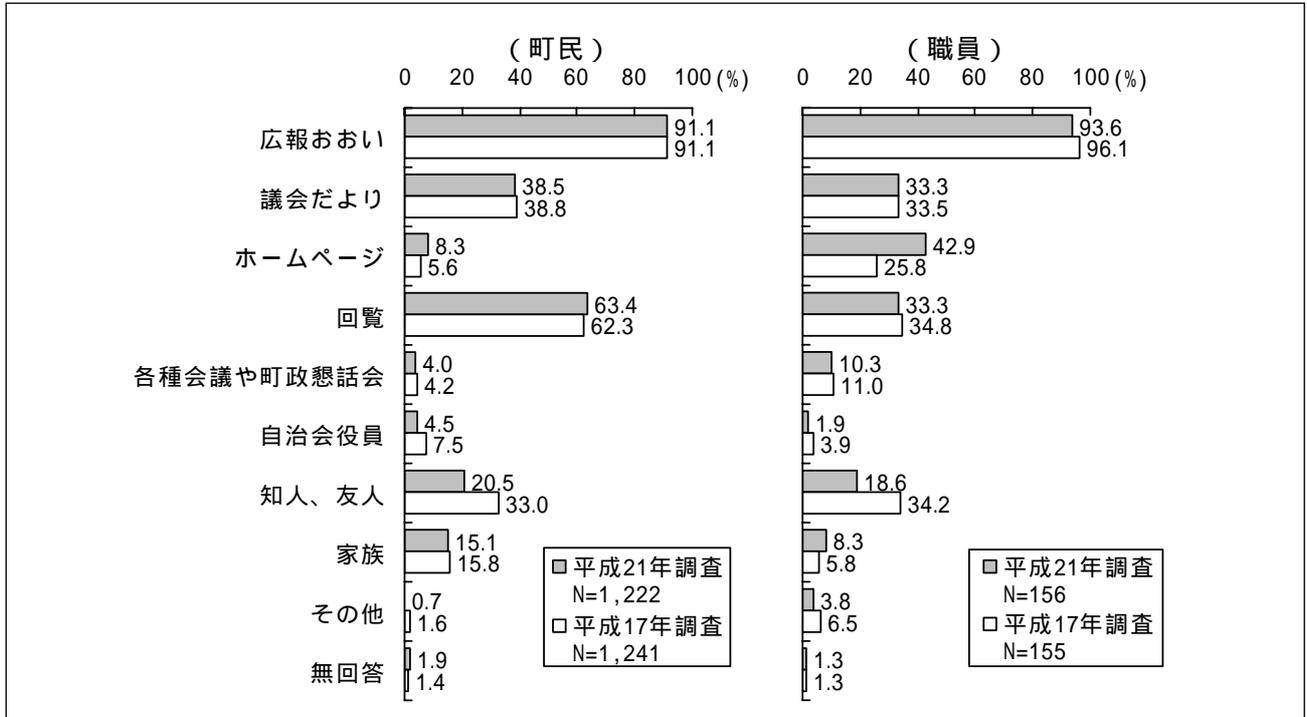
年齢別にみると、20～29歳と30～39歳の1位「太陽光や風力など自然エネルギー等の有効活用」（20～29歳44.2%、30～39歳43.5%）や、50～59歳と60～69歳の2位「自然環境・生態系の保全・保護」（50～59歳39.7%、60～69歳36.4%）などは全体の傾向と順位が異なっている。

地区別にみると、大差はみられない。

まちづくりへの参加と協力について

町に関する情報を入手する手段

問 17 あなたは、町に関する情報を（窓口以外から）主にどのようにして得ていますか。



町に関する情報を入手する手段は、町民アンケートでは「広報おい」が 91.1%と最も高く、次いで「回覧」が 63.4%、「議会だより」が 38.5%となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、「知人、友人」(20.5%) で平成 17 年調査の 33.0% に比べて下回っているほかは、大きな変化はみられない。

職員アンケートでは、「広報おい」が 93.6%と最も高く、次いで「ホームページ」が 42.9%、「議会だより」と「回覧」がいずれも 33.3%となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、「ホームページ」(42.9%) では平成 17 年調査の 25.8% に比べて目立って高くなっている一方、「知人、友人」(18.6%) では平成 17 年調査の 34.2% に比べて目立って低くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	広報おおい 91.1	回覧 63.4	議会だより 38.5
性別	男性	N=564	広報おおい 89.2	回覧 59.2	議会だより 40.8
	女性	N=654	広報おおい 92.7	回覧 67.1	議会だより 36.5
年齢別	16～19歳	N=32	広報おおい 78.1	家族 65.6	回覧 43.8
	20～29歳	N=113	広報おおい 82.3	回覧 42.5	家族 38.1
	30～39歳	N=200	広報おおい 88.0	回覧 58.0	議会だより 22.5
	40～49歳	N=150	広報おおい 92.0	回覧 61.3	議会だより 29.3
	50～59歳	N=194	広報おおい 92.3	回覧 73.2	議会だより 47.9
	60～69歳	N=302	広報おおい 95.7	回覧 70.9	議会だより 52.3
	70歳以上	N=231	広報おおい 92.2	回覧 64.5	議会だより 51.5
地区別	金田地区	N=761	広報おおい 92.4	回覧 63.6	議会だより 39.7
	曽我地区	N=333	広報おおい 90.1	回覧 64.3	議会だより 36.3
	相和地区	N=121	広報おおい 86.8	回覧 60.3	議会だより 39.7

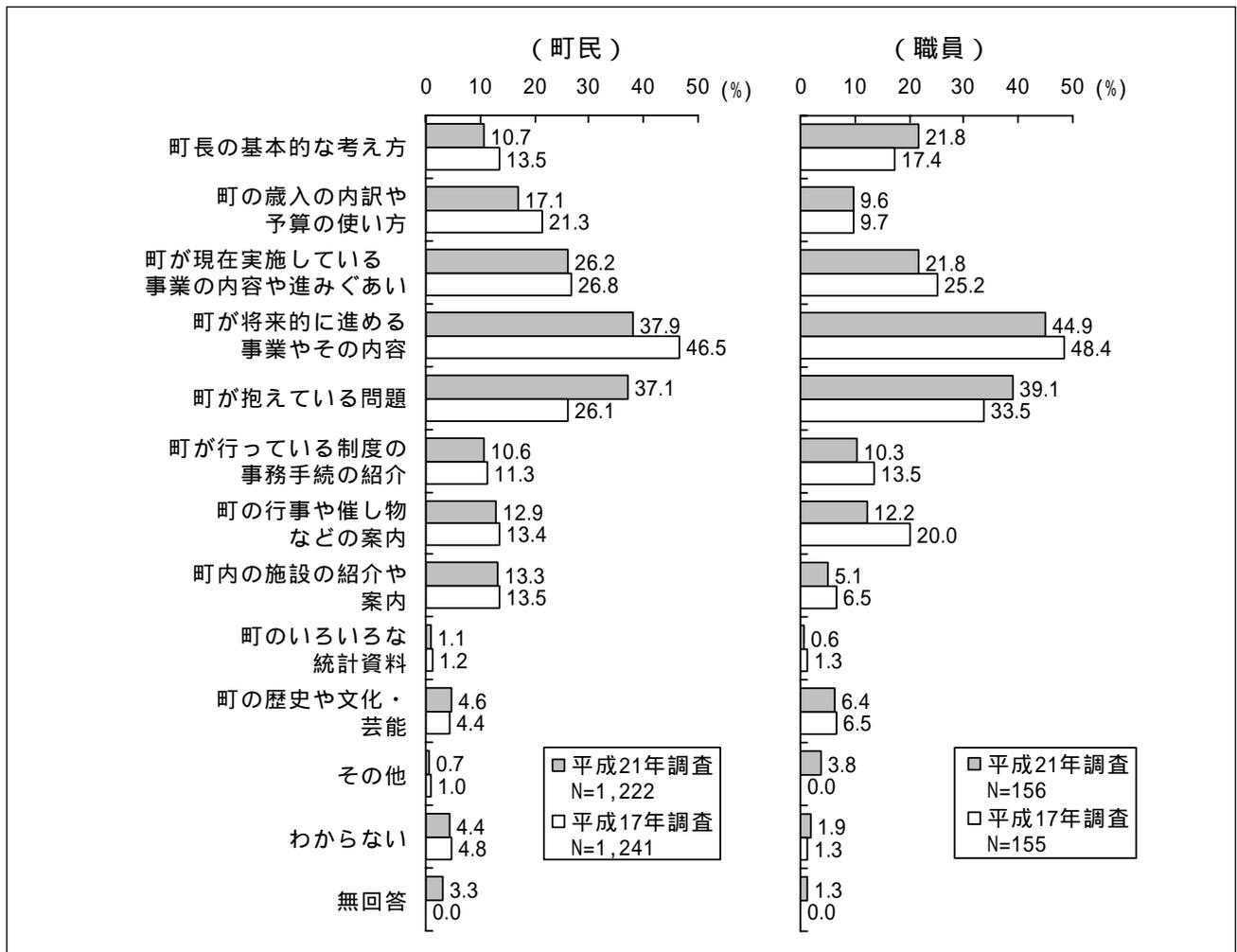
性別にみると、順位に性別による違いはないが、2位「回覧」では男性の59.2%に比べて女性は67.1%とやや高くなっている。

年齢別にみると、30歳以上では全体の傾向と同様となっているが、16～19歳の2位「家族」(65.6%)、3位「回覧」(43.8%)と20～29歳の3位「家族」(38.1%)は、全体の傾向と順位や項目が異なっており、特徴的である。

地区別にみると、大差はみられない。

町について特に知りたい情報

問 18 あなたが、大井町について特に知りたい情報は何か。



町について特に知りたい情報は、町民アンケートでは「町が将来的に進める事業やその内容」が37.9%と最も高く、次いで「町が抱えている問題」が37.1%、「町が現在実施している事業の内容や進みぐあい」が26.2%となっている。平成17年の調査と比較してみると、「町が将来的に進める事業やその内容」(37.9%)では、平成17年調査の46.5%に比べてやや低くなっている一方、「町が抱えている問題」(37.1%)では、平成17年調査の26.1%に比べて高くなっている。

職員アンケートでは、「町が将来的に進める事業やその内容」が44.9%と最も高く、次いで「町が抱えている問題」が39.1%、「町長の基本的な考え方」と「町が現在実施している事業の内容や進みぐあい」がいずれも21.8%となっている。平成17年の調査と比較してみると、「町の行事や催し物などの案内」(12.2%)では、平成17年調査の20.0%に比べてやや低くなっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「町長の基本的な考え方」(町民10.7%、職員21.8%)や「町が将来的に進める事業やその内容」(町民37.9%、職員44.9%)では、町民に比べて職員が高くなっている。一方、「町の歳入の内訳や予算の使い方」(町民17.1%、職員9.6%)や「町内の施設の紹介や案内」(町民13.3%、職員5.1%)では、職員に比べて町民がやや高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	町が将来的に進める事業やその内容 37.9	町が抱えている問題 37.1	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 26.2
性別	男性	N=564	町が将来的に進める事業やその内容 45.0	町が抱えている問題 41.3	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 26.8
	女性	N=654	町が抱えている問題 33.5	町が将来的に進める事業やその内容 31.8	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 25.7
年齢別	16～19歳	N=32	町の歳入の内訳や予算の使い方 37.5	町が抱えている問題 28.1	町の行事や催し物などの案内 25.0
	20～29歳	N=113	町が抱えている問題 29.2	町が将来的に進める事業やその内容 27.4	町の行事や催し物などの案内 24.8
	30～39歳	N=200	町が抱えている問題 38.5	町が将来的に進める事業やその内容 33.0	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 26.5
	40～49歳	N=150	町が抱えている問題 42.7	町が将来的に進める事業やその内容 35.3	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 28.0
	50～59歳	N=194	町が抱えている問題 42.8	町が将来的に進める事業やその内容 41.8	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 28.4
	60～69歳	N=302	町が将来的に進める事業やその内容 48.7	町が抱えている問題 37.7	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 28.8
	70歳以上	N=231	町が将来的に進める事業やその内容 33.8	町が抱えている問題 31.6	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 22.1
地区別	金田地区	N=761	町が抱えている問題 39.3	町が将来的に進める事業やその内容 37.3	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 26.1
	曾我地区	N=333	町が将来的に進める事業やその内容 39.3	町が抱えている問題 31.5	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 26.7
	相和地区	N=121	町が抱えている問題 37.2	町が将来的に進める事業やその内容 36.4	町が現在実施している事業の内容や進みぐあい 26.4

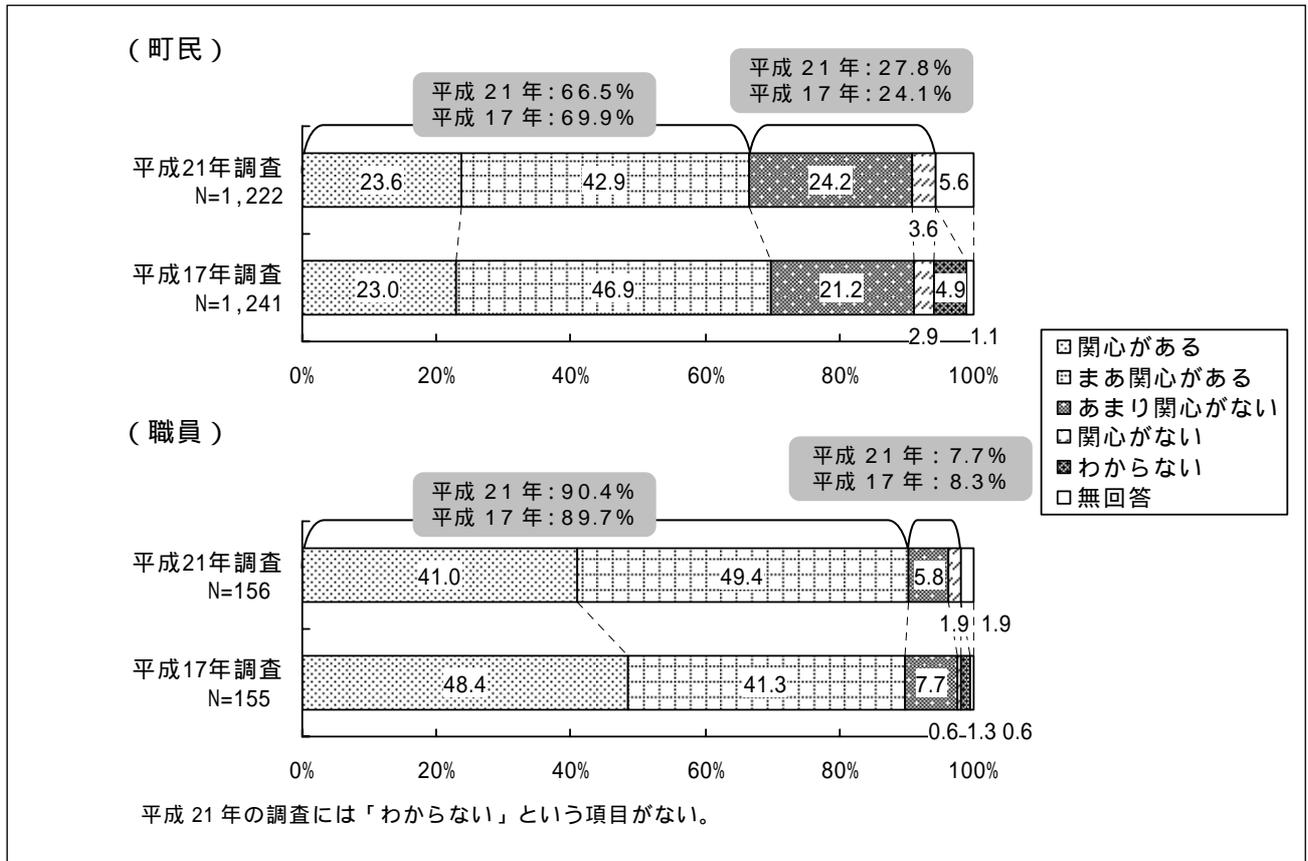
性別にみると、女性は1位「町が抱えている問題」(33.5%)、2位「町が将来的に進める事業やその内容」(31.8%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。また、「町が将来的に進める事業やその内容」では女性の31.8%に比べて男性では45.0%と目立って高くなっている。

年齢別にみると、16～19歳の1位「町の歳入の内訳や予算の使い方」(37.5%)、3位「町の行事や催し物などの案内」(25.0%)、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳の1位「町が抱えている問題」(20～29歳29.2%、30～39歳38.5%、40～49歳42.7%、50～59歳42.8%)、20～29歳の3位「町の行事や催し物の案内」(24.8%)などは、全体の傾向とは順位や項目が異なっている。

地区別にみると、金田地区と相和地区では1位「町が抱えている問題」(金田地区39.3%、相和地区37.2%)、2位「町が将来的に進める事業やその内容」(金田地区37.3%、相和地区36.4%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。

地域づくりやまちづくり活動に対する関心

問 19 あなたは、地域づくりやまちづくり活動に関心がありますか。



地域づくりやまちづくり活動に対する関心は、町民アンケートでは「まあ関心がある」が42.9%と最も高く、次いで「あまり関心がない」が24.2%、「関心がある」が23.6%となっている。平成17年の調査と比較してみると、大きな変化は見られない。

職員アンケートでは、「まあ関心がある」が49.4%と最も高く、次いで「関心がある」が41.0%となっている。平成17年の調査と比較してみると、「関心がある」(41.0%)は平成17年調査の48.4%に比べてやや低くなっている一方、「まあ関心がある」(49.4%)は平成17年調査の41.3%に比べてやや高くなっており、「関心がある」から「まあ関心がある」へ移動したと思われるが、「関心がある」と「まあ関心がある」を合わせた割合に大きな変化は見られない。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「関心がある」と「まあ関心がある」を合わせた割合は、職員の90.4%に比べて町民は66.5%と目立って低くなっている一方、「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた割合は、職員の7.7%に比べて町民は27.8%と目立って高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	まあ関心がある 42.9	あまり関心がない 24.2	関心がある 23.6
性別	男性	N=564	まあ関心がある 41.3	関心がある 29.6	あまり関心がない 20.9
	女性	N=654	まあ関心がある 44.3	あまり関心がない 27.1	関心がある 18.5
年齢別	16～19歳	N=32	まあ関心がある 53.1	あまり関心がない 31.3	関心がない 9.4
	20～29歳	N=113	あまり関心がない 40.7	まあ関心がある 38.1	関心がある 14.2
	30～39歳	N=200	まあ関心がある 52.5	あまり関心がない 26.5	関心がある 16.0
	40～49歳	N=150	まあ関心がある 45.3	あまり関心がない 26.0	関心がある 22.0
	50～59歳	N=194	まあ関心がある 48.5	関心がある 24.7	あまり関心がない 21.6
	60～69歳	N=302	まあ関心がある 42.1	関心がある 28.8	あまり関心がない 20.5
	70歳以上	N=231	関心がある 31.2	まあ関心がある 30.3	あまり関心がない 19.0
地区別	金田地区	N=761	まあ関心がある 42.3	あまり関心がない 25.0	関心がある 23.7
	曾我地区	N=333	まあ関心がある 43.5	関心がある 24.3	あまり関心がない 23.1
	相和地区	N=121	まあ関心がある 45.5	あまり関心がない 23.1	関心がある 21.5

性別にみると、男性の2位「関心がある」は29.6%となっており、女性の3位「関心がある」(18.5%)に比べ目立って高くなっている。

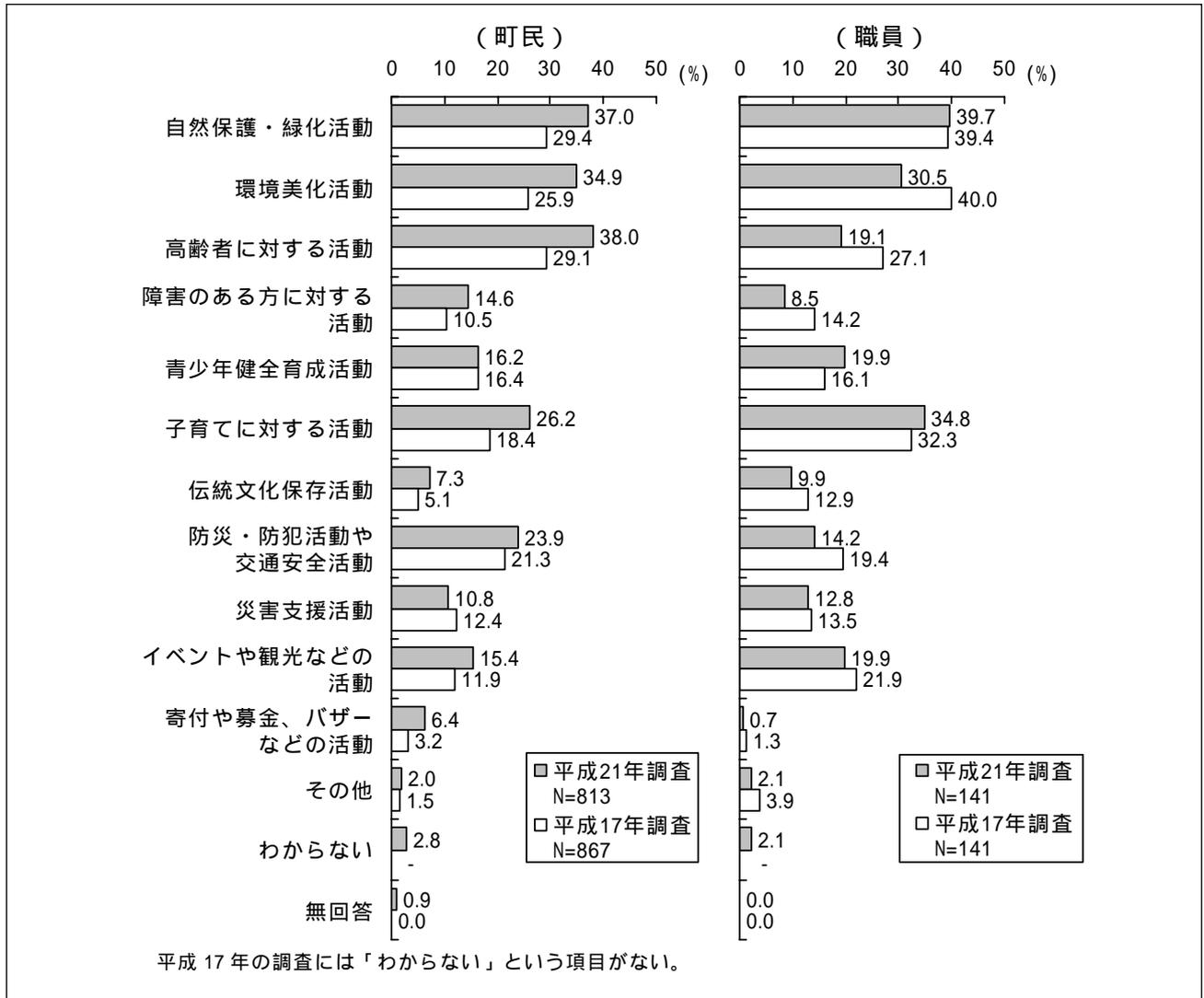
年齢別にみると、16～19歳では3位「関心がない」(9.4%)、20～29歳では1位「あまり関心がない」(40.7%)となっており、若年層で関心が低くなっていることがうかがわれる。一方、50～59歳と60～69歳では2位「関心がある」(50～59歳24.7%、60～69歳28.8%)、70歳以上では1位「関心がある」(31.2%)となっており、年代が高くなるにつれ関心が高まっていることがうかがわれる。

地区別にみると、曾我地区では2位「関心がある」(24.3%)となっており、他の地区に比べてやや関心が高いことがうかがわれる。

今後の活動意向

【問 19 で 1 または 2 と答えた方におたずねします。】

問 19 - 1 あなたが今後活動したいと思うものはどれですか。



今後の活動意向は、町民アンケートでは「高齢者に対する活動」が 38.0%と最も高く、以下「自然保護・緑化活動」(37.0%)、「環境美化活動」(34.9%)となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、「青少年健全育成活動」と「災害支援活動」を除く項目で、平成 21 年調査は平成 17 年調査を上回っており、特に「環境美化活動」(平成 17 年調査 25.9%、平成 21 年調査 34.9%)、「高齢者に対する活動」(平成 17 年調査 29.1%、平成 21 年調査 38.0%)は比較的高くなっている。

職員アンケートでは、「自然保護・緑化活動」が 39.7%と最も高く、以下「子育てに対する活動」(34.8%)、「環境美化活動」(30.5%)となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、「環境美化活動」(平成 17 年調査 40.0%、平成 21 年調査 30.5%)や「高齢者に対する活動」(平成 17 年調査 27.1%、平成 21 年調査 19.1%)では、平成 17 年調査に比べ平成 21 年調査ではやや低くなっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「高齢者に対する活動」(町民 38.0%、職員 19.1%)や「防災・防犯活動や交通安全活動」(町民 23.9%、職員 14.2%)では、職員に比べ町民が高くなっている一方、「子育てに対する活動」では町民の 26.2%に比べて職員は 34.8%と高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=813	高齢者に対する活動 38.0	自然保護・緑化活動 37.0	環境美化活動 34.9
性別	男性	N=400	自然保護・緑化活動 42.3	環境美化活動 38.3	高齢者に対する活動 33.3
	女性	N=411	高齢者に対する活動 42.6	子育てに対する活動 34.3	自然保護・緑化活動 32.1
年齢別	16～19歳	N=18	自然保護・緑化活動 / 子育てに対する活動 44.4		環境美化活動 / イベントや観光などの活動 33.3
	20～29歳	N=59	子育てに対する活動 45.8	イベントや観光などの活動 40.7	自然保護・緑化活動 35.6
	30～39歳	N=137	子育てに対する活動 54.0	自然保護・緑化活動 31.4	防災・防犯活動や交通安全活動 25.5
	40～49歳	N=101	環境美化活動 40.6	自然保護・緑化活動 36.6	高齢者に対する活動 32.7
	50～59歳	N=142	自然保護・緑化活動 41.5	高齢者に対する活動 38.0	環境美化活動 36.6
	60～69歳	N=214	高齢者に対する活動 44.4	環境美化活動 41.6	自然保護・緑化活動 38.3
	70歳以上	N=142	高齢者に対する活動 57.7	環境美化活動 40.8	自然保護・緑化活動 35.9
地区別	金田地区	N=502	高齢者に対する活動 39.8	自然保護・緑化活動 36.1	環境美化活動 33.1
	曾我地区	N=226	環境美化活動 38.9	自然保護・緑化活動 37.6	高齢者に対する活動 35.0
	相和地区	N=81	自然保護・緑化活動 40.7	環境美化活動 / 高齢者に対する活動 34.6	

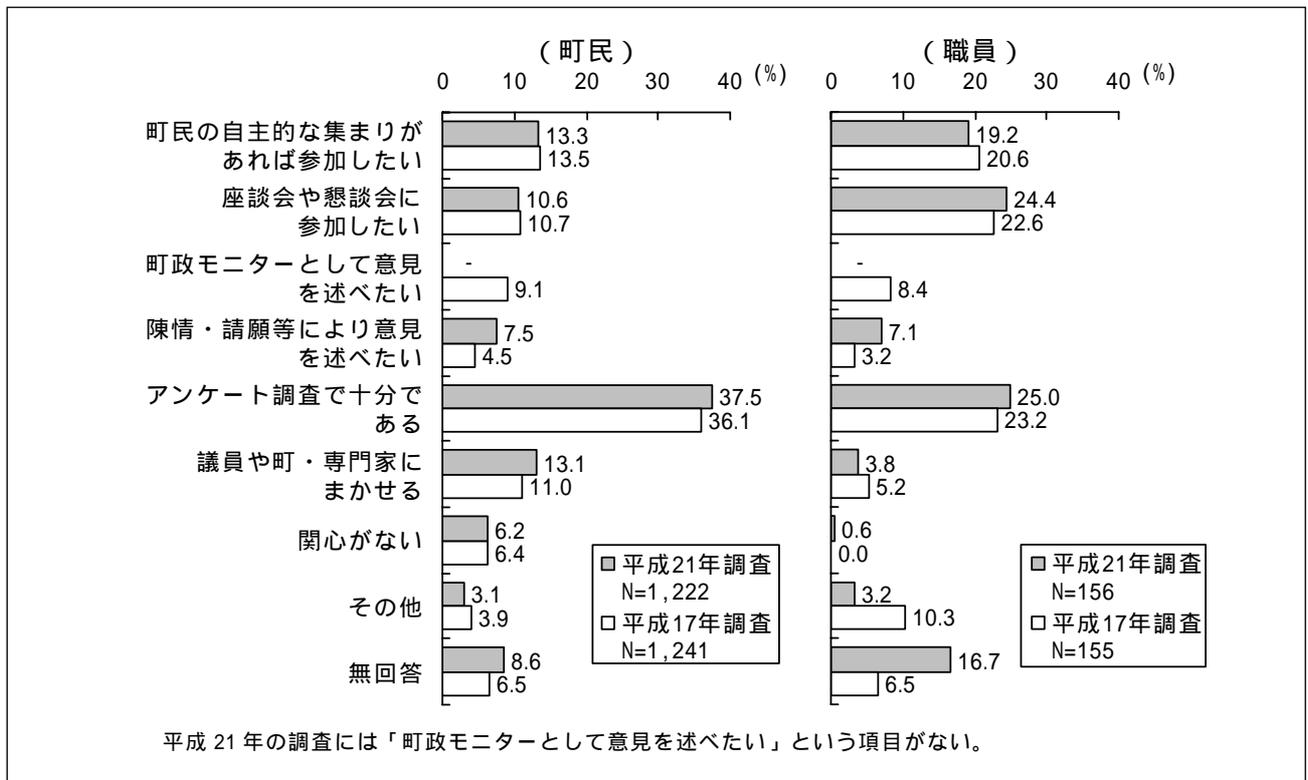
性別にみると、男性は1位「自然保護・緑化活動」(42.3%)、2位「環境美化活動」(38.3%)、3位「高齢者に対する活動」(33.3%)となっている。また、女性は2位「子育てに対する活動」(34.3%)、3位「自然保護・緑化活動」(32.1%)となっており、性別により順位や項目が異なっている。

年齢別にみると、16～19歳と20～29歳、30～39歳の1位「子育てに対する活動」(16～19歳44.4%、20～29歳45.8%、30～39歳54.0%)や、20～29歳の2位「イベントや観光などの活動」(40.7%)、30～39歳の3位「防災・防犯活動や交通安全活動」(25.5%)などは、全体の傾向とは順位や項目が異なっている。

地区別にみると、金田地区では全体の傾向と同様となっているが、曾我地区では1位「環境美化活動」(38.9%)、2位「自然保護・緑化活動」(37.6%)、3位「高齢者に対する活動」(35.0%)、相和地区では1位「自然保護・緑化活動」(40.7%)、2位「環境美化活動」、「高齢者に対する活動」(いずれも34.6%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。

町に対する意見の伝え方

問 20 あなたは、町に対してどのような方法で意見を伝えたいと考えていますか。



町に対する意見の伝え方は、町民アンケートでは「アンケート調査で十分である」が 37.5%と目立って高く、次いで「町民の自主的な集まりがあれば参加したい」が 13.3%、「議員や町・専門家にまかせる」が 13.1%となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、大きな変化は見られない。

職員アンケートでは、「アンケート調査で十分である」が 25.0%と最も高く、次いで「座談会や懇談会に参加したい」が 24.4%、「町民の自主的な集まりがあれば参加したい」が 19.2%となっている。平成 17 年の調査と比較してみると、大きな変化は見られない。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「座談会や懇談会に参加したい」では町民の 10.6%に比べて職員は 24.4%と 10 ポイント以上高くなっている。一方、「アンケート調査で十分である」では職員の 25.0%に比べて町民は 37.5%と目立って高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	アンケート調査で十分である 37.5	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 13.3	議員や町・専門家にまかせる 13.1
性別	男性	N=564	アンケート調査で十分である 32.6	座談会や懇談会に参加したい 15.4	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 14.7
	女性	N=654	アンケート調査で十分である 41.6	議員や町・専門家にまかせる 13.6	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 12.2
年齢別	16～19歳	N=32	アンケート調査で十分である 53.1	町民の自主的な集まりがあれば参加したい／関心がない 9.4	
	20～29歳	N=113	アンケート調査で十分である 48.7	議員や町・専門家にまかせる／関心がない 11.5	
	30～39歳	N=200	アンケート調査で十分である 49.0	陳情・請願等により意見を述べたい 11.5	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 9.0
	40～49歳	N=150	アンケート調査で十分である 40.0	議員や町・専門家にまかせる 13.3	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 10.7
	50～59歳	N=194	アンケート調査で十分である 37.6	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 14.4	座談会や懇談会に参加したい 12.4
	60～69歳	N=302	アンケート調査で十分である 27.5	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 18.9	議員や町・専門家にまかせる 16.9
	70歳以上	N=231	アンケート調査で十分である 31.2	議員や町・専門家にまかせる 18.6	座談会や懇談会に参加したい 14.3
地区別	金田地区	N=761	アンケート調査で十分である 38.2	町民の自主的な集まりがあれば参加したい／議員や町・専門家にまかせる 12.6	
	曽我地区	N=333	アンケート調査で十分である 35.7	町民の自主的な集まりがあれば参加したい 16.8	議員や町・専門家にまかせる 12.6
	相和地区	N=121	アンケート調査で十分である 36.4	議員や町・専門家にまかせる 18.2	座談会や懇談会に参加したい 14.9

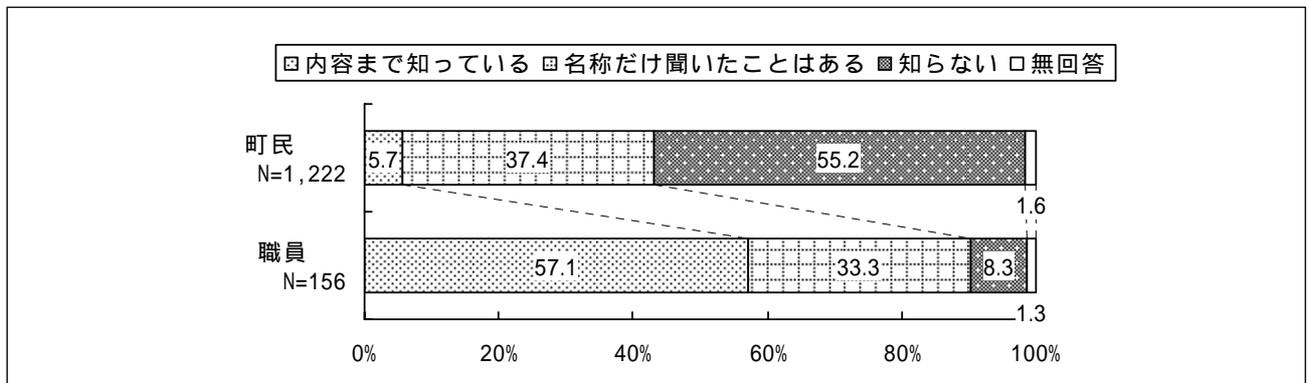
性別にみると、男性では2位「座談会や懇談会に参加したい」(15.4%)、3位「町民の自主的な集まりがあれば参加したい」(14.7%)となっており、女性では2位「議員や町・専門家にまかせる」(13.6%)、3位「町民の自主的な集まりがあれば参加したい」(12.2%)となっており、女性に比べて男性の方がより積極的に町とかかわろうとしていることがうかがえる。

年齢別にみると、16～19歳と20～29歳の2位「関心がない」(16～19歳9.4%、20～29歳11.5%)や30～39歳の2位「陳情・請願等により意見を述べたい」(11.5%)は、全体の傾向や他の年代とは項目が異なっている。また、1位「アンケート調査で十分である」は、年代が高くなるほど割合が低くなる傾向にあり、若年層において町に意見を伝えることについて積極的でないことがうかがわれる。

地区別にみると、相和地区の2位「議員や町・専門家にまかせる」は、18.2%と他地区に比べてやや高くなっている。

大井町自治基本条例の認知度

問 21 あなたは、平成 21 年 4 月より施行された「大井町自治基本条例」についてご存知ですか。



大井町自治基本条例の認知度は、町民アンケートでは「知らない」が 55.2%と過半数を占めて最も高く、次いで「名称だけ聞いたことはある」が 37.4%となっている。

職員アンケートでは、「内容まで知っている」が 57.1%と最も高く、次いで「名称だけ聞いたことはある」が 33.3%となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「内容まで知っている」は職員の 57.1%に比べて町民は 5.7%と目立って低くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1 位			2 位			3 位		
全体		N=1,222	知らない	55.2	名称だけ聞いたことはある	37.4	内容まで知っている	5.7			
性別	男性	N=564	知らない	53.0	名称だけ聞いたことはある	36.7	内容まで知っている	9.0			
	女性	N=654	知らない	57.2	名称だけ聞いたことはある	37.9	内容まで知っている	2.9			
年齢別	16～19歳	N=32	知らない	81.3	名称だけ聞いたことはある	15.6	内容まで知っている	0.0			
	20～29歳	N=113	知らない	85.0	名称だけ聞いたことはある	14.2	内容まで知っている	0.9			
	30～39歳	N=200	知らない	64.5	名称だけ聞いたことはある	32.0	内容まで知っている	2.5			
	40～49歳	N=150	知らない	59.3	名称だけ聞いたことはある	35.3	内容まで知っている	5.3			
	50～59歳	N=194	知らない	54.1	名称だけ聞いたことはある	38.1	内容まで知っている	6.7			
	60～69歳	N=302	知らない / 名称だけ聞いたことはある		45.0			8.6			
	70歳以上	N=231	名称だけ聞いたことはある	47.2	知らない	40.7	内容まで知っている	7.4			
地区別	金田地区	N=761	知らない	54.1	名称だけ聞いたことはある	38.8	内容まで知っている	5.5			
	曽我地区	N=333	知らない	58.0	名称だけ聞いたことはある	35.1	内容まで知っている	6.0			
	相和地区	N=121	知らない	53.7	名称だけ聞いたことはある	35.5	内容まで知っている	6.6			

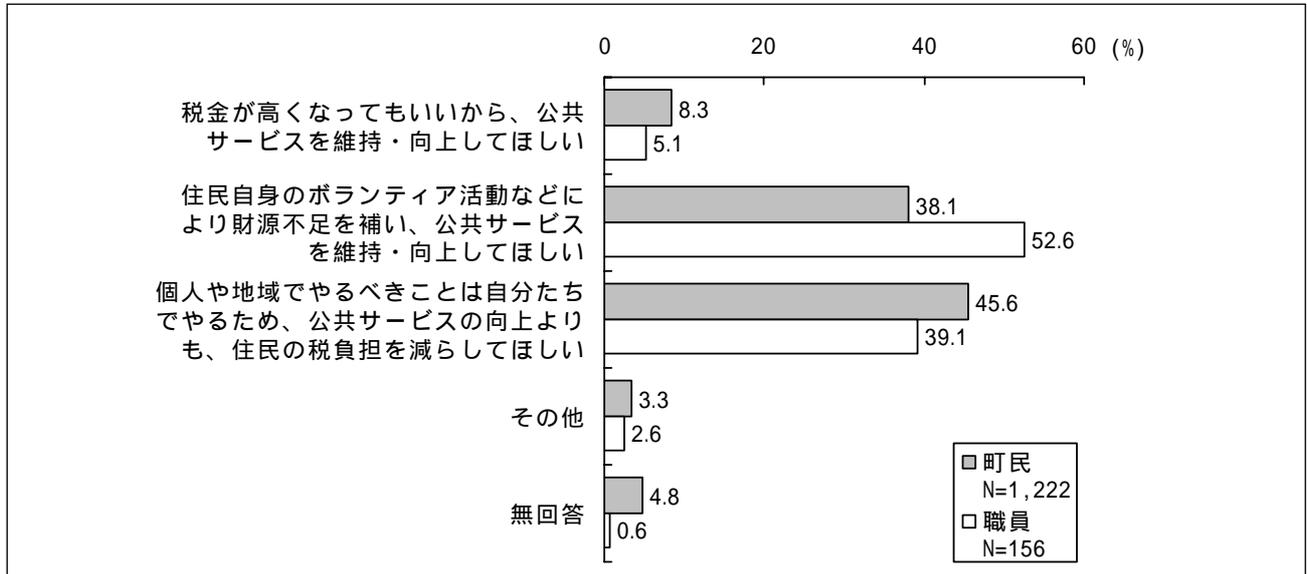
性別にみると、順位に違いはないが、3位「内容まで知っている」は女性の 2.9%に比べて男性は 9.0%とやや高くなっている。

年齢別にみると、「知らない」は年代が高くなるほど割合が低くなっており、3位「内容まで知っている」は年代が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。

地区別にみると、大差はみられない。

今後の公共サービスのあり方についての考え

問 22 地方分権が進展するなか、地域住民の自己決定・自己責任が求められています。このような時代を迎えるにあたり、今後の公共サービスのあり方について、あなたはどのような考えをお持ちですか。



今後の公共サービスのあり方についての考えは、町民アンケートでは「個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい」が45.6%と最も高く、次いで「住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい」が38.1%となっている。

職員アンケートでは、「住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい」が52.6%と最も高く、次いで「個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい」が39.1%となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい」では、町民の38.1%に比べて職員は52.6%と14.5ポイント高くなっている。一方、「個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい」では、職員の39.1%に比べて町民は45.6%とやや高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 45.6	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 38.1	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 8.3
性別	男性	N=564	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 45.4	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 36.5	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 9.6
	女性	N=654	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 45.7	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 39.4	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 7.0
年齢別	16～19歳	N=32	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 40.6	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 34.4	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 18.8
	20～29歳	N=113	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 56.6	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 31.0	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 8.0
	30～39歳	N=200	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 41.0	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 40.5	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 10.0
	40～49歳	N=150	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 42.7	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 32.7	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 16.0
	50～59歳	N=194	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい/住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 43.3	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 6.2	
	60～69歳	N=302	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい/住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 44.4	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 5.0	
	70歳以上	N=231	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 51.5	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 29.4	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 6.5
地区別	金田地区	N=761	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 46.1	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 38.5	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 8.1
	曾我地区	N=333	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 45.9	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 36.9	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 7.2
	相和地区	N=121	個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民の税負担を減らしてほしい 41.3	住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい 38.8	税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい 12.4

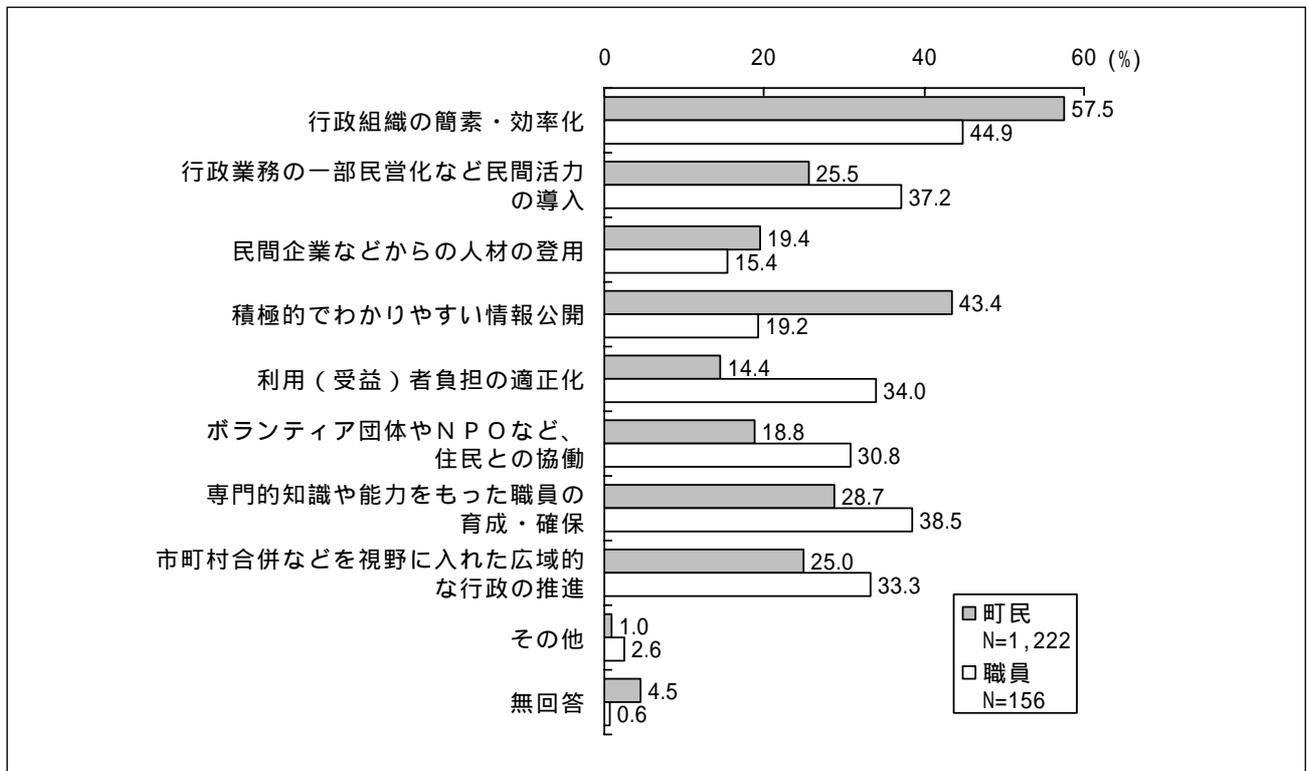
性別にみると、大差はみられない。

年齢別にみると、16～19歳と30～39歳では1位「住民自身のボランティア活動などにより財源不足を補い、公共サービスを維持・向上してほしい」(16～19歳40.6%、30～39歳41.0%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。また、3位「税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい」は、16～19歳(18.8%)、30～39歳(10.0%)、40～49歳(16.0%)で1割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

地区別にみると、全体と同様の傾向だが、相和地区の3位「税金が高くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい」は12.4%と1割を超えており、他の地区に比べてやや高くなっている。

地方分権や行財政改革を進めるために重点的に取り組むべきこと

問 23 あなたは、地方分権や行財政改革を進めるために、どのようなことを重点的に取り組むべきだと思われますか。



地方分権や行財政改革を進めるために重点的に取り組むべきことは、町民アンケートでは「行政組織の簡素・効率化」が57.5%と最も高く、次いで「積極的でわかりやすい情報公開」が43.4%、「専門的知識や能力を持った職員の育成・確保」が28.7%となっている。

職員アンケートでは、「行政組織の簡素・効率化」が44.9%と最も高く、次いで「専門的知識を持った職員の育成・確保」が38.5%、「行政業務の一部民営化など民間活力の導入」が37.2%となっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「行政業務の一部民営化など民間活力の導入」(町民25.5%、職員37.2%)や「利用(受益)者負担の適正化」(町民14.4%、職員34.0%)、「ボランティア団体やNPOなど、住民との協働」(町民18.8%、職員30.8%)、「専門的知識や能力を持った職員の育成・確保」(町民28.7%、職員38.5%)では町民に比べ職員が高くなっている。一方、「行政組織の簡素・効率化」(町民57.5%、職員44.9%)や、「積極的でわかりやすい情報公開」(町民43.4%、職員19.2%)では職員に比べて町民が目立って高くなっている。

【属性別】

(単位：%)

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	行政組織の簡素・効率化 57.5	積極的でわかりやすい情報公開 43.4	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 28.7
性別	男性	N=564	行政組織の簡素・効率化 61.9	積極的でわかりやすい情報公開 41.8	行政業務の一部民営化など民間活力の導入 29.8
	女性	N=654	行政組織の簡素・効率化 53.5	積極的でわかりやすい情報公開 44.8	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 31.0
年齢別	16～19歳	N=32	積極的でわかりやすい情報公開 59.4	行政組織の簡素・効率化 43.8	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 34.4
	20～29歳	N=113	積極的でわかりやすい情報公開 56.6	行政組織の簡素・効率化 38.1	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 36.3
	30～39歳	N=200	行政組織の簡素・効率化 54.5	積極的でわかりやすい情報公開 42.5	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 28.5
	40～49歳	N=150	行政組織の簡素・効率化 58.7	積極的でわかりやすい情報公開 40.0	行政業務の一部民営化など民間活力の導入 31.3
	50～59歳	N=194	行政組織の簡素・効率化 67.0	積極的でわかりやすい情報公開 38.7	行政業務の一部民営化など民間活力の導入 30.4
	60～69歳	N=302	行政組織の簡素・効率化 64.2	積極的でわかりやすい情報公開 48.3	市町村合併などを視野に入れた広域的な行政の推進 30.5
	70歳以上	N=231	行政組織の簡素・効率化 54.1	積極的でわかりやすい情報公開 35.1	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 29.9
地区別	金田地区	N=761	行政組織の簡素・効率化 57.0	積極的でわかりやすい情報公開 42.2	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 29.7
	曾我地区	N=333	行政組織の簡素・効率化 59.2	積極的でわかりやすい情報公開 44.7	市町村合併などを視野に入れた広域的な行政の推進 26.4
	相和地区	N=121	行政組織の簡素・効率化 56.2	積極的でわかりやすい情報公開 47.1	専門的知識や能力をもった職員の育成・確保 33.1

性別にみると、男性では3位「行政業務の一部民営化など民間活力の導入」(29.8%)となっており、全体の傾向と異なっている。また、1位「行政組織の簡素・効率化」では女性の53.5%に比べて男性は61.9%とやや高くなっている。

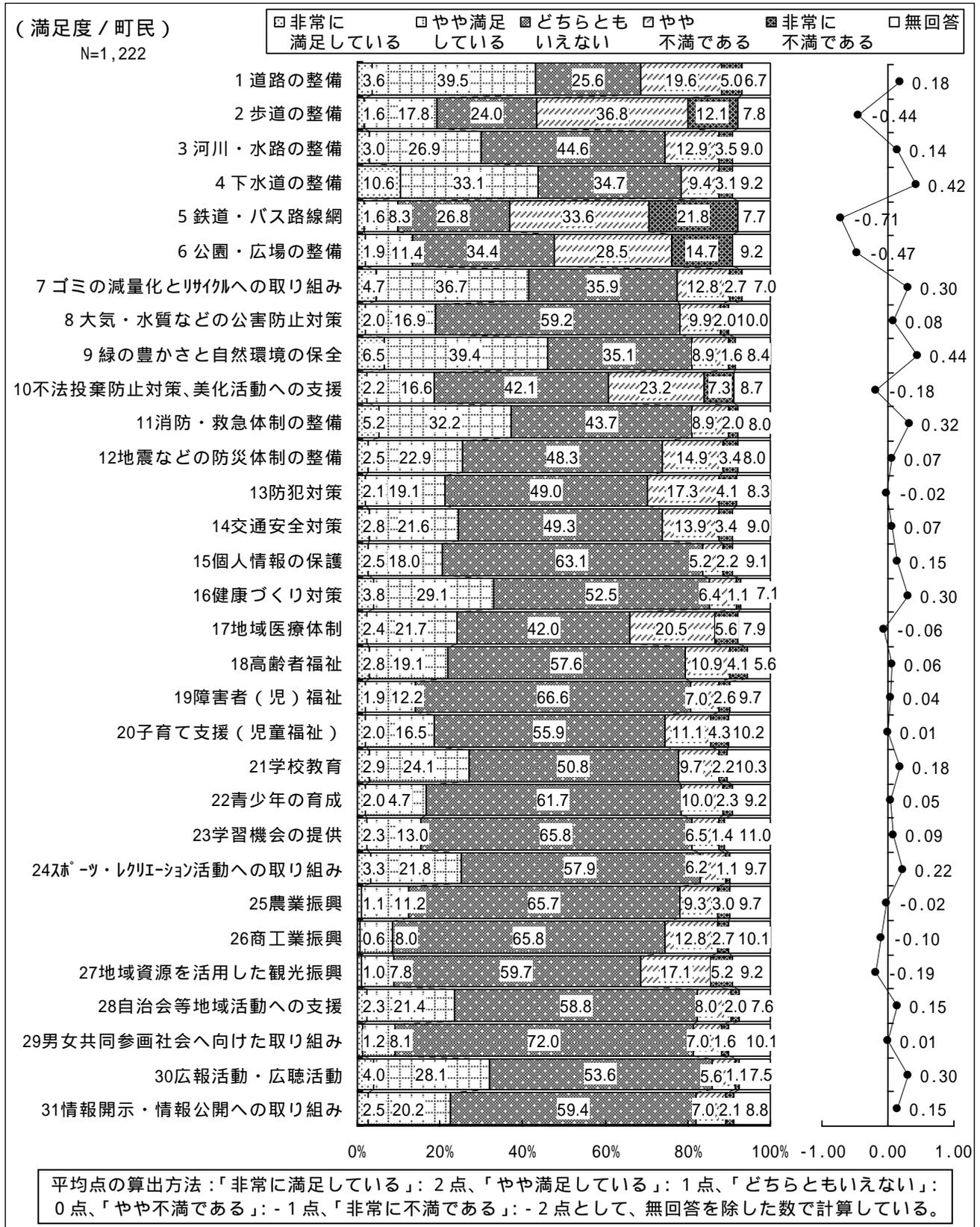
年齢別にみると、16～19歳と20～29歳では1位「積極的でわかりやすい情報公開」(16～19歳59.4%、20～29歳56.6%)となっており、全体の傾向とは順位が異なっている。また、40～49歳と50～59歳の3位「行政業務の一部民営化など民間活力の導入」(40～49歳31.3%、50～59歳30.4%)や60～69歳の3位「市町村合併などを視野に入れた広域的な行政の推進」(30.5%)など、各年代で項目や順位がやや異なっている。

地区別にみると、曾我地区では3位「市町村合併などを視野に入れた広域的な行政の推進」が26.4%となっている。

行政の施策や事業への取り組みについて

各種施策・事業に対する満足度と重要度

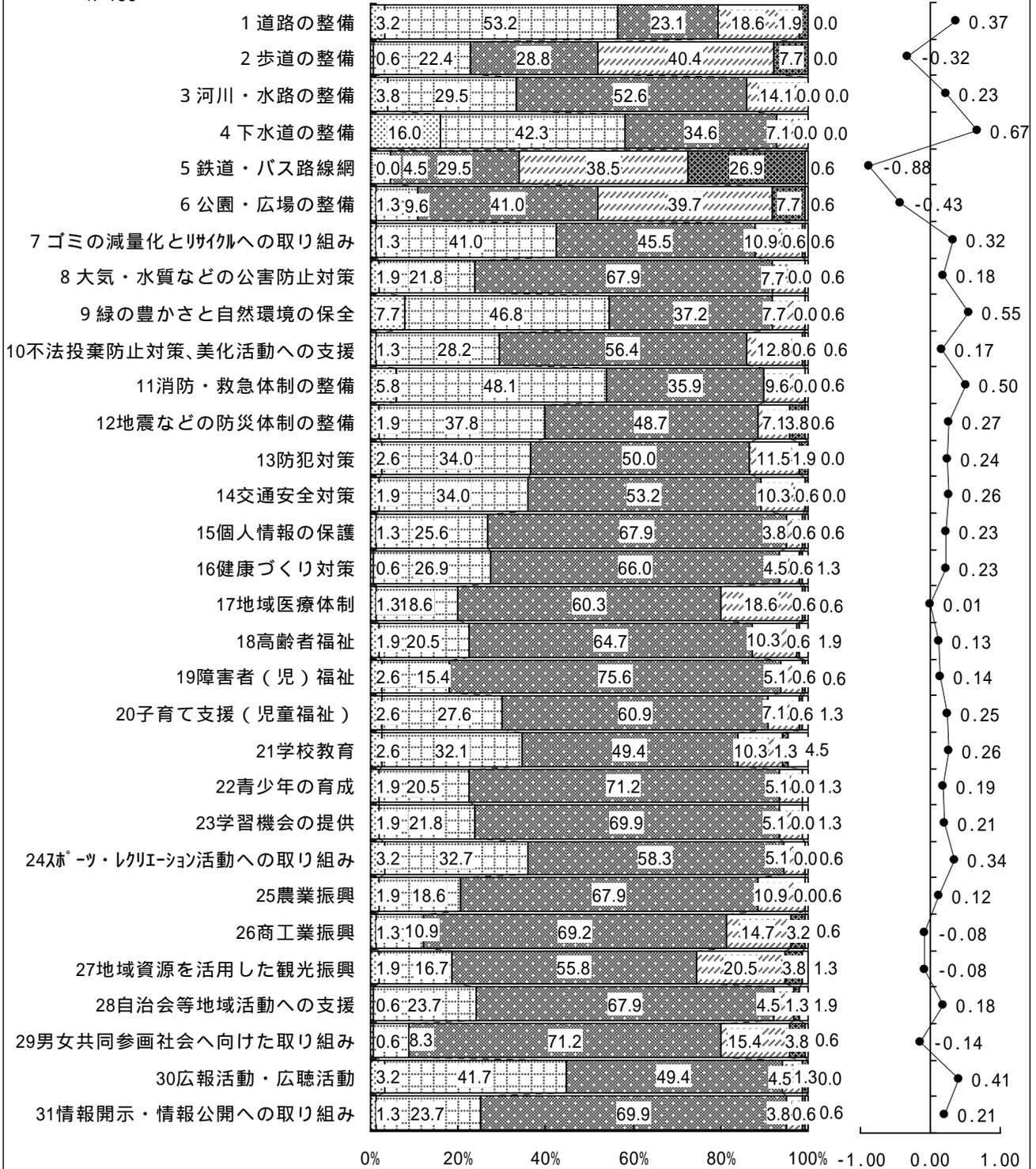
問 24 町では、各種施策・事業に取り組んでいます。これらの取り組みについて、どのように評価し、今後どの程度重要と感じていますか。1～31 までの各々について、満足度で1つ、重要度（必要度）で1つ選んで番号に 印をつけてください。



(満足度/職員)

N=156

非常に満足している
 やや満足している
 どちらともいえない
 やや不満である
 非常に不満である
 無回答



平均点の算出方法: 「非常に満足している」: 2点、「やや満足している」: 1点、「どちらともいえない」: 0点、「やや不満である」: -1点、「非常に不満である」: -2点として、無回答を除いた数で計算している。

『満足』（「非常に満足している」＋「やや満足している」）上位 10 項目

町民			職員			
順位						
1	9	緑の豊かさと自然環境の保全	45.9%	4	下水道の整備	58.3%
2	4	下水道の整備	43.7%	1	道路の整備	56.4%
3	1	道路の整備	43.1%	9	緑の豊かさと自然環境の保全	54.5%
4	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	41.4%	11	消防・救急体制の整備	53.9%
5	11	消防・救急体制の整備	37.4%	30	広報活動・広聴活動	44.9%
6	16	健康づくり対策	32.9%	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	42.3%
7	30	広報活動・広聴活動	32.1%	12	地震などの防災体制の整備	39.7%
8	3	河川・水路の整備	29.9%	13	防犯対策	36.6%
9	21	学校教育	27.0%	14	交通安全対策 / 24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	35.9%
10	12	地震などの防災体制の整備	25.4%			

『満足』（「非常に満足している」＋「やや満足している」）下位 10 項目

町民			職員			
順位						
1	26	商工業振興	8.6%	5	鉄道・バス路線網	4.5%
2	27	地域資源を活用した観光振興	8.8%	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	8.9%
3	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	9.3%	6	公園・広場の整備	10.9%
4	5	鉄道・バス路線網	9.9%	26	商工業振興	12.2%
5	25	農業振興	12.3%	19	障害者（児）福祉	18.0%
6	6	公園・広場の整備	13.3%	27	地域資源を活用した観光振興	18.6%
7	19	障害者（児）福祉	14.1%	17	地域医療体制	19.9%
8	23	学習機会の提供	15.3%	25	農業振興	20.5%
9	22	青少年の育成	16.7%	18	高齢者福祉 / 22 青少年の育成	22.4%
10	20	子育て支援（児童福祉）	18.5%			

各種施策・事業に対する満足度について、町民アンケートでは“満足”（「非常に満足している」＋「やや満足している」）は、『9 緑の豊かさと自然環境の保全』（45.9%）、『4 下水道の整備』（43.7%）、『1 道路の整備』（43.1%）などが高くなっている。一方、『26 商工業振興』（8.6%）、『27 地域資源を活用した観光振興』（8.8%）、『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（9.3%）は“満足”が1割に満たない。また、上記の加点方法で平均点を算出したところ、『9 緑の豊かさと自然環境の保全』（0.44点）、『4 下水道の整備』（0.42点）、『11 消防・救急体制の整備』（0.32点）が高くなっている。

職員アンケートでは、“満足”は『4 下水道の整備』（58.3%）、『1 道路の整備』（56.4%）などが高くなっている。一方、『5 鉄道・バス路線網』（4.5%）、『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（8.9%）は“満足”が1割に満たない。また、上記の加点方法で平均点を算出したところ、『4 下水道の整備』（0.67点）、『9 緑の豊かさと自然環境の保全』（0.55点）、『11 消防・救急体制の整備』（0.50点）などが高くなっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、“満足”上位 10 項目、下位 10 項目とも町民と職員で共通している項目は多いが、上位 10 項目においてはおおむね町民に比べて職員の“満足”の割合が高い傾向にある。下位 10 項目では割合に大差はみられない。

【性別】

『満足』（「非常に満足している」＋「やや満足している」）上位10項目

順位	男性		女性			
1	4	下水道の整備	47.7%	9	緑の豊かさと自然環境の保全	48.5%
2	9	緑の豊かさと自然環境の保全	42.9%	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	45.0%
3	1	道路の整備	42.2%	1	道路の整備	44.0%
4	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	37.6%	4	下水道の整備	40.1%
5	11	消防・救急体制の整備	34.9%	11	消防・救急体制の整備	39.4%
6	3	河川・水路の整備	31.7%	16	健康づくり対策	39.0%
7	30	広報活動・広聴活動	28.5%	30	広報活動・広聴活動	35.3%
8	16	健康づくり対策	25.9%	3	河川・水路の整備	28.4%
9	21	学校教育	25.7%	21	学校教育	28.3%
10	24	スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	23.0%	12	地震などの防災体制の整備	28.1%

『満足』（「非常に満足している」＋「やや満足している」）下位10項目

順位	男性		女性			
1	26	商工業振興	6.9%	5	鉄道・バス路線網	9.2%
2	27	地域資源を活用した観光振興 /	7.8%	27	地域資源を活用した観光振興	9.6%
3	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み		26	商工業振興	10.1%
4	5	鉄道・バス路線網	10.6%	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	10.7%
5	23	学習機会の提供 / 25 農業振興	12.9%	25	農業振興	11.6%
6				6	公園・広場の整備	13.0%
7	6	公園・広場の整備	13.5%	19	障害者（児）福祉	14.4%
8	19	障害者（児）福祉	13.7%	22	青少年の育成	17.3%
9	20	子育て支援（児童福祉）	15.8%	23	学習機会の提供	17.4%
10	22	青少年の育成	16.1%	2	歩道の整備 / 10 不法投棄防 止対策及び美化活動への支援	19.3%

性別に“満足”上位10項目をみると、男性では『4 下水道の整備』（47.7%）が最も高く、次いで『9 緑の豊かさと自然環境の保全』（42.9%）となっている。女性では『9 緑の豊かさと自然環境の保全』（48.5%）が最も高く、次いで『7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み』（45.0%）となっている。性別で共通する項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、特に『16 健康づくり対策』は男性の25.9%に対し、女性は39.0%と10ポイント以上の差がある。

一方、“満足”下位10項目をみると、男性では『26 商工業振興』（6.9%）、『27 地域資源を活用した観光振興』、『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（いずれも7.8%）が、女性では『5 鉄道・バス路線網』（9.2%）、『27 地域資源を活用した観光振興』（9.6%）などが低く、いずれも1割に満たない。性別で共通する項目に、大差はみられない。

【年齢別】

『満足』（「非常に満足している」+「やや満足している」）上位10項目

順位	16～19歳	
1	9 緑の豊かさと自然環境の保全	56.3%
2	11 消防・救急体制の整備	50.0%
3	1 道路の整備 / 30 広報活動・広聴活動	46.9%
4		
5	3 河川・水路の整備 / 13 防犯対策 / 14 交通安全対策	40.6%
6		
7		
8	4 下水道の整備 / 7 ゴみの減量化とリサイクルへの取り組み / 15 個人情報の保護	37.5%
9		
10		

20～29歳	
1	道路の整備 40.7%
9	緑の豊かさと自然環境の保全 38.9%
3	河川・水路の整備 32.7%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 31.0%
2	歩道の整備 30.1%
4	下水道の整備 27.4%
30	広報活動・広聴活動 24.8%
14	交通安全対策 / 24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み 21.2%
10	不法投棄防止対策及び美化活動への支援 / 11 消防・救急体制の整備 19.5%

順位	30～39歳	
1	9 緑の豊かさと自然環境の保全	51.5%
2	1 道路の整備	42.5%
3	4 下水道の整備	39.5%
4	16 健康づくり対策	31.0%
5	3 河川・水路の整備	30.0%
6	7 ゴみの減量化とリサイクルへの取り組み	29.5%
7	30 広報活動・広聴活動	28.0%
8	11 消防・救急体制の整備	26.5%
9	14 交通安全対策	23.0%
10	21 学校教育	21.5%

40～49歳	
9	緑の豊かさと自然環境の保全 51.3%
4	下水道の整備 49.3%
1	道路の整備 44.7%
3	河川・水路の整備 41.3%
11	消防・救急体制の整備 39.3%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 38.7%
21	学校教育 / 30 広報活動・広聴活動 36.0%
24	スポーツ・レクリエーション活動への取り組み 29.3%
28	自治会等地域活動への支援 26.0%

順位	50～59歳	
1	4 下水道の整備	49.0%
2	7 ゴみの減量化とリサイクルへの取り組み	45.9%
3	1 道路の整備	44.8%
4	9 緑の豊かさと自然環境の保全	43.8%
5	11 消防・救急体制の整備	36.6%
6	3 河川・水路の整備	29.4%
7	12 地震などの防災体制の整備	27.3%
8	16 健康づくり対策	26.8%
9	30 広報活動・広聴活動	24.7%
10	21 学校教育	24.2%

60～69歳	
4	下水道の整備 51.0%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 49.7%
9	緑の豊かさと自然環境の保全 47.4%
1	道路の整備 45.4%
11	消防・救急体制の整備 45.0%
16	健康づくり対策 38.7%
30	広報活動・広聴活動 35.1%
12	地震などの防災体制の整備 31.1%
17	地域医療体制 30.1%
21	学校教育 29.1%

順位	70歳以上	
1	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 45.0%
2	16	健康づくり対策 43.7%
3	11	消防・救急体制の整備 42.9%
4	9	緑の豊かさと自然環境の保全 39.4%
5	1	道路の整備 39.0%
6	4	下水道の整備 38.1%
7	30	広報活動・広聴活動 36.8%
8	18	高齢者福祉 35.9%
9	17	地域医療体制 32.0%
10	21	学校教育 30.3%

年齢別に“満足”上位10項目をみると、30～39歳では6位『7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み』（29.5%）が他の年齢に比べてやや低くなっている。『4 下水道の整備』及び『11 消防・救急体制の整備』については、年齢が高いほど満足度が高くなる傾向にある。年齢別で共通する項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、20～29歳と40～49歳では『24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み』（20～29歳21.2%、40～49歳29.3%）が、40～49歳では『28 自治会等地域活動への支援』（26.0%）が他の年齢にはみられない項目となっている。また、70歳以上では2位『7 健康づくり対策』（43.7%）の順位が高くなっている。

【年齢別】

『満足』（「非常に満足している」+「やや満足している」）下位10項目

順位	16～19歳	
1	5 鉄道・バス路線網	9.4%
2	27 地域資源を活用した観光振興	
3	22 青少年の育成	15.6%
4	28 自治会等地域活動への支援	18.8%
5	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	
6	6 公園・広場の整備 / 10 不法投	21.9%
7	棄防止対策及び美化活動への支援	
8	/ 17 地域医療体制 / 19 障害者	
9	(児)福祉 / 20 子育て支援(児童	
10	福祉) / 21 学校教育	

20～29歳		
5	鉄道・バス路線網	7.1%
26	商工業振興	8.0%
19	障害者(児)福祉	8.8%
18	高齢者福祉 / 25 農業振興	9.7%
17	地域医療体制	10.6%
27	地域資源を活用した観光振興	
15	個人情報の保護 / 23 学習機	12.4%
	会の提供 / 29 男女共同参画社会へ向	
	けた取り組み	

順位	30～39歳	
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	3.5%
2	26 商工業振興	7.0%
3	5 鉄道・バス路線網	7.5%
4	27 地域資源を活用した観光振興	8.0%
5	6 公園・広場の整備	8.5%
6	19 障害者(児)福祉	9.0%
7	18 高齢者福祉 / 22 青少年の育	11.5%
8	成	
9	2 歩道の整備 / 25 農業振興	13.5%
10		

40～49歳		
29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	8.7%
5	鉄道・バス路線網 / 26 商工業	10.0%
	振興	
27	地域資源を活用した観光振興	10.7%
19	障害者(児)福祉	11.3%
6	公園・広場の整備 / 25 農業振	14.7%
	興	
2	歩道の整備	15.3%
8	大気・水質などの公害防止対策	17.3%
23	学習機会の提供	18.0%

順位	50～59歳	
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	5.7%
2	25 農業振興	6.2%
3	27 地域資源を活用した観光振興	7.2%
4	26 商工業振興	7.7%
5	5 鉄道・バス路線網	11.3%
6	22 青少年の育成	11.9%
7	23 学習機会の提供	12.4%
8	6 公園・広場の整備	12.9%
9	19 障害者(児)福祉	14.9%
10	8 大気・水質などの公害防止対策	17.0%
	/ 20 子育て支援(児童福祉)	

60～69歳		
27	地域資源を活用した観光振興	7.3%
26	商工業振興	8.6%
25	農業振興	10.6%
29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	11.3%
5	鉄道・バス路線網	11.9%
6	公園・広場の整備	14.2%
23	学習機会の提供	14.9%
19	障害者(児)福祉	16.2%
22	青少年の育成	18.5%
20	子育て支援(児童福祉)	19.5%

順位	70歳以上	
1	26 商工業振興	7.8%
2	5 鉄道・バス路線網	10.0%
3	27 地域資源を活用した観光振興	10.4%
4	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	12.6%
5	6 公園・広場の整備	14.3%
6	25 農業振興	15.2%
7	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	15.6%
8	23 学習機会の提供	15.6%
9	20 子育て支援（児童福祉）	17.7%
10	19 障害者（児）福祉	18.2%

年齢別に“満足”下位10項目をみると、16～19歳と20～29歳では『5 鉄道・バス路線網』（16～19歳9.4%、20～29歳7.1%）が、30～39歳、40～49歳、50～59歳では『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（30～39歳3.5%、40～49歳8.7%、50～59歳5.7%）が、60～69歳では『27 地域資源を活用した観光振興』（7.3%）が、70歳以上では『26 商工業振興』（7.8%）がそれぞれ最も低く、いずれも1割に満たない。『5 鉄道・バス路線網』は年齢が低いほど満足度も低くなる傾向にある。30～39歳では5位『6 公園・広場の整備』（8.5%）の割合が他の年齢に比べてやや低くなっている。40～49歳と50～59歳では『8 大気・水質などの公害防止対策』（40～49歳17.3%、50～59歳17.0%）が他の年齢にはみられない項目となっている。

【地区別】

『満足』（「非常に満足している」＋「やや満足している」）上位10項目

順位	金田地区	
1	4	下水道の整備 48.1%
2	1	道路の整備 44.8%
3	9	緑の豊かさと自然環境の保全 44.7%
4	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 41.4%
5	11	消防・救急体制の整備 36.5%
6	16	健康づくり対策 33.5%
7	30	広報活動・広聴活動 31.4%
8	3	河川・水路の整備 31.3%
9	21	学校教育 25.4%
10	12 14	地震などの防災体制の整備 / 交通安全対策 25.0%

曾我地区	
9	緑の豊かさと自然環境の保全 49.2%
4	下水道の整備 47.7%
1	道路の整備 45.6%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 39.9%
11	消防・救急体制の整備 37.2%
30	広報活動・広聴活動 33.3%
3	河川・水路の整備 32.7%
16	健康づくり対策 31.8%
21	学校教育 29.1%
12	地震などの防災体制の整備 26.7%

順位	相和地区	
1	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 47.1%
2	9	緑の豊かさと自然環境の保全 44.6%
3	11	消防・救急体制の整備 43.0%
4	16	健康づくり対策 / 30 広報活 動・広聴活動
5	30	
6	21	学校教育 30.6%
7	18	高齢者福祉 29.8%
8	1	道路の整備 / 12 地震などの 防災体制の整備
9	12	
10	31	情報開示・情報公開への取り組み 23.1%

地区別に“満足”上位10項目をみると、金田地区では『4 下水道の整備』（48.1%）が、曾我地区では『9 緑の豊かさと自然環境の保全』（49.2%）が、相和地区では『7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み』（47.1%）が、それぞれ最も高くなっている。地区別で共通する項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、相和地区では8位『1 道路の整備』（24.8%）が金田地区（44.8%）、曾我地区（45.6%）に比べて目立って低くなっている。一方、1位『7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み』（47.1%）は、金田地区（41.4%）、曾我地区（39.9%）に比べてやや高くなっている。

【地区別】

『満足』（「非常に満足している」＋「やや満足している」）下位 10 項目

順位	金田地区	
1	26 商工業振興	7.6%
2	27 地域資源を活用した観光振興	8.1%
3	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	8.9%
4	25 農業振興	10.2%
5	5 鉄道・バス路線網	11.8%
6	19 障害者（児）福祉	12.7%
7	6 公園・広場の整備	14.1%
8	23 学習機会の提供	14.2%
9	22 青少年の育成	15.9%
10	20 子育て支援（児童福祉）	17.9%

曾我地区		
5	鉄道・バス路線網	7.8%
27	地域資源を活用した観光振興 / 29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	10.8%
26	商工業振興	11.4%
6	公園・広場の整備	13.8%
2	歩道の整備 / 23 学習機会の提供	16.5%
25	農業振興	16.8%
22	青少年の育成	17.4%
8	大気・水質などの公害防止対策	18.0%

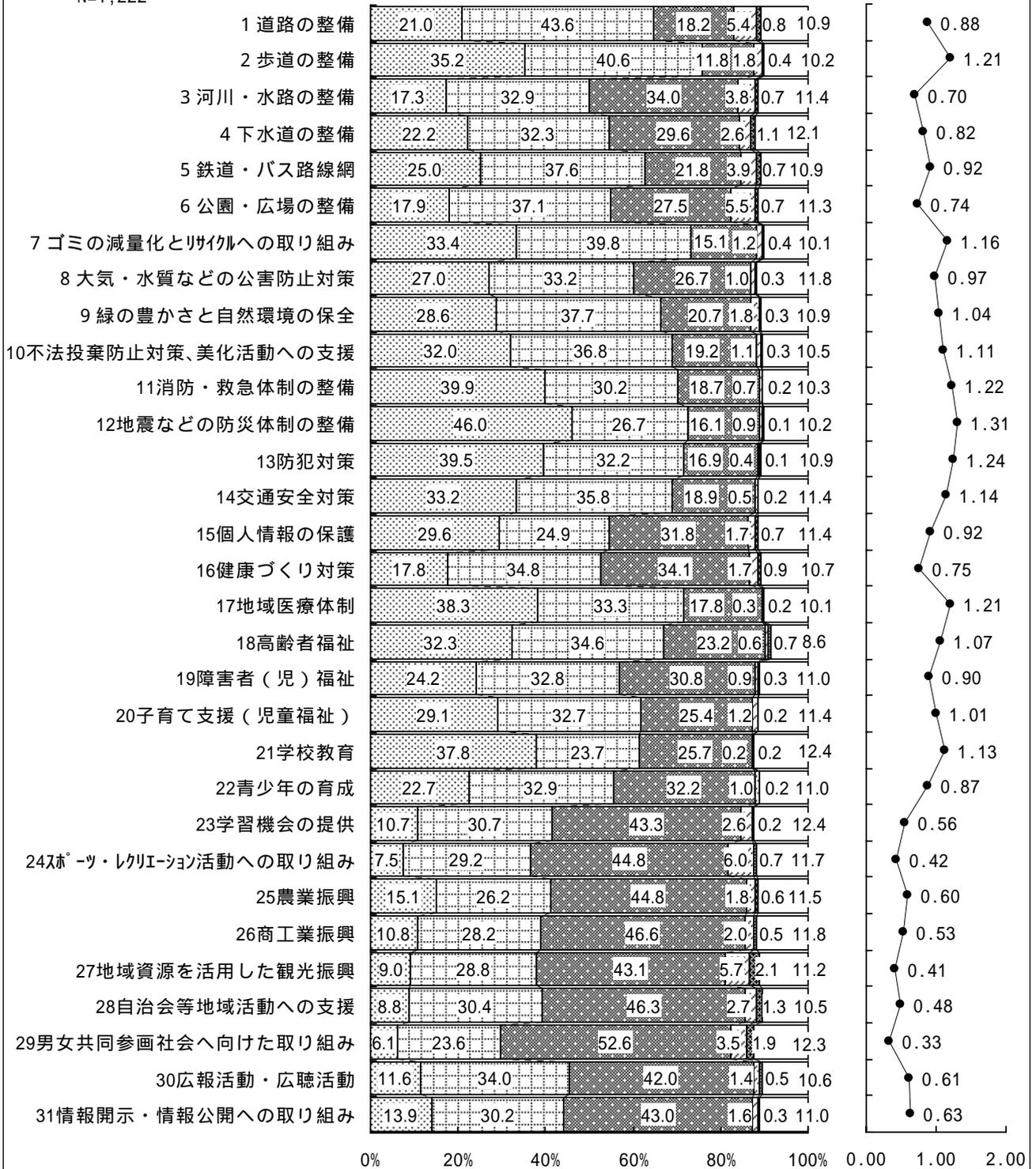
順位	相和地区	
1	5 鉄道・バス路線網	5.0%
2	4 下水道の整備	5.8%
3	6 公園・広場の整備 / 26 商工業振興 / 27 地域資源を活用した観光振興	7.4%
4		
5		
6	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	8.3%
7	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	9.9%
8	19 障害者（児）福祉	11.6%
9	25 農業振興	12.4%
10	3 河川・水路の整備 / 20 子育て支援（児童福祉）	13.2%

地区別に“満足”下位 10 項目をみると、金田地区では『26 商工業振興』（7.6%）が、曾我地区と相和地区では『5 鉄道・バス路線網』（曾我地区 7.8%、相和地区 5.0%）が最も低くなっている。地区別で共通する項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、特に相和地区では 3 位『6 公園・広場の整備』（7.4%）が金田地区（14.1%）、曾我地区（13.8%）に比べて低くなっている。また、1 位『5 鉄道・バス路線網』（5.0%）も金田地区（11.8%）、曾我地区（7.8%）に比べてやや低くなっている。

(重要度/町民)

特に重要である
 少し重要である
 どちらともいえない
 あまり重要ではない
 全く重要ではない
 無回答

N=1,222

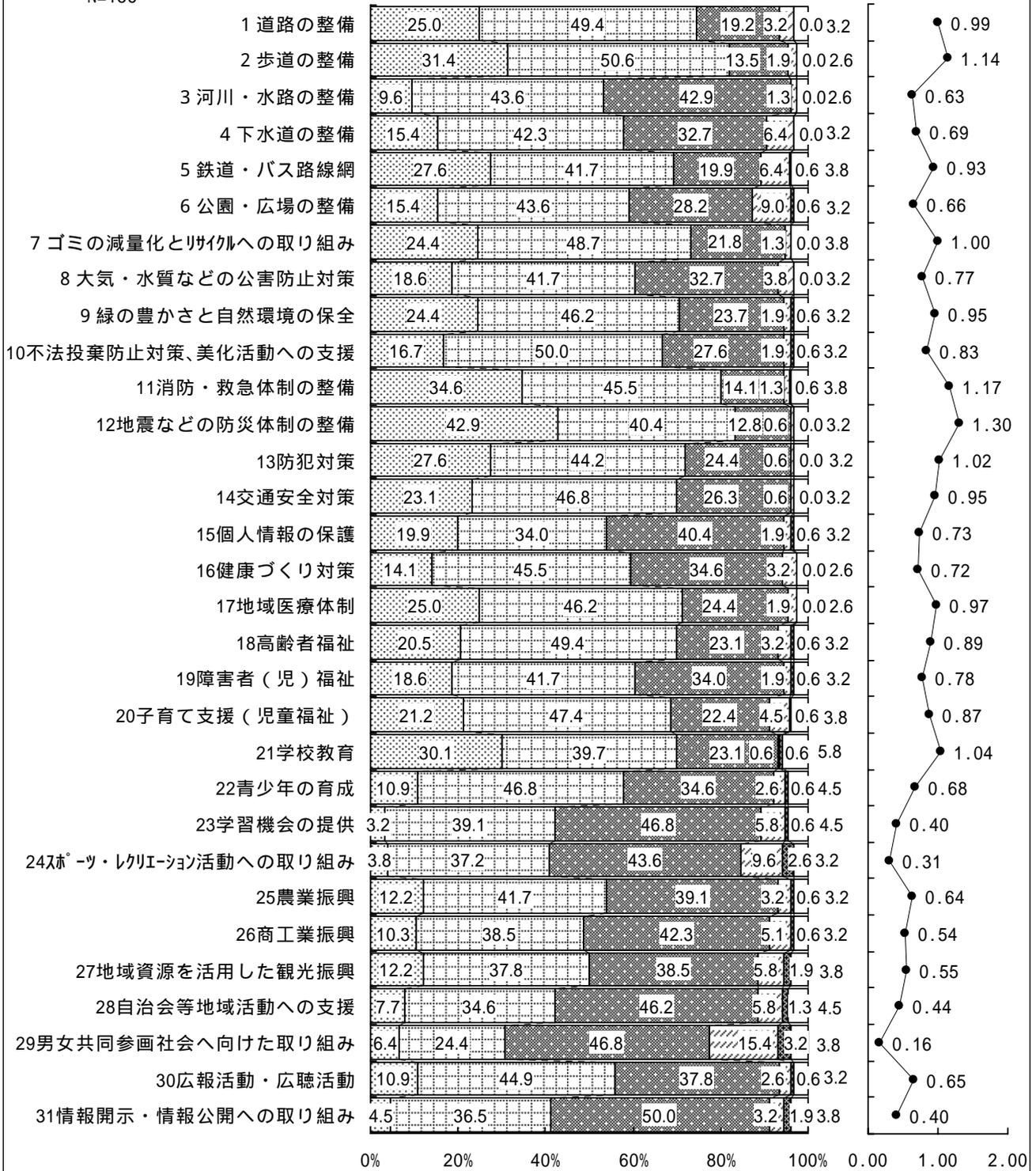


平均点の算出方法: 「特に重要である」: 2点、「少し重要である」: 1点、「どちらともいえない」: 0点、「あまり重要ではない」: -1点、「全く重要ではない」: -2点として、無回答を除いた数で計算している。

(重要度 / 職員)

N=156

特に重要である
 少し重要である
 どちらともいえない
 あまり重要ではない
 全く重要ではない
 無回答



平均点の算出方法：「特に重要である」：2点、「少し重要である」：1点、「どちらともいえない」：0点、「あまり重要ではない」：-1点、「全く重要ではない」：-2点として、無回答を除いた数で計算している。

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）上位 10 項目

町民			職員			
順位						
1	2	歩道の整備	75.8%	12	地震などの防災体制の整備	83.3%
2	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	73.2%	2	歩道の整備	82.0%
3	12	地震などの防災体制の整備	72.7%	11	消防・救急体制の整備	80.1%
4	13	防犯対策	71.7%	1	道路の整備	74.4%
5	17	地域医療体制	71.6%	7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	73.1%
6	11	消防・救急体制の整備	70.1%	13	防犯対策	71.8%
7	14	交通安全対策	69.0%	17	地域医療体制	71.2%
8	10	不法投棄防止対策及び美化活動への支援	68.8%	9	緑の豊かさと自然環境の保全	70.6%
9	18	高齢者福祉	66.9%	14	交通安全対策 / 18 高齢者福祉 / 21 学校教育	69.9%
10	9	緑の豊かさと自然環境の保全	66.3%			

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）下位 10 項目

町民			職員			
順位						
1	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	29.7%	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	30.8%
2	24	スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	36.7%	24	スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	41.0%
3	27	地域資源を活用した観光振興	37.8%	/ 31	情報開示・情報公開への取り組み	41.0%
4	26	商工業振興	39.0%	23	学習機会の提供 / 28 自治会	42.3%
5	28	自治会等地域活動への支援	39.2%	等地域活動への支援		
6	25	農業振興	41.3%	26	商工業振興	48.8%
7	23	学習機会の提供	41.4%	27	地域資源を活用した観光振興	50.0%
8	31	情報開示・情報公開への取り組み	44.1%	3	河川・水路の整備	53.2%
9	30	広報活動・広聴活動	45.6%			
10	3	河川・水路の整備	50.2%	15	個人情報の保護 / 25 農業振興	53.9%

各種施策・事業に対する重要度について、町民アンケートでは“重要”（「特に重要である」＋「少し重要である」）は、『2 歩道の整備』（75.8%）、『7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み』（73.2%）などが高くなっている。一方、『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（29.7%）が低くなっている。また、上記の加点方法で平均点を算出したところ、『12 地震などの防災体制の整備』（1.31点）、『13 防犯対策』（1.24点）、『11 消防・救急体制の整備』（1.22点）などが高くなっている。

職員アンケートでは、“重要”は『12 地震などの防災体制の整備』（83.3%）、『2 歩道の整備』（82.0%）、『11 消防・救急体制の整備』（80.1%）などが高くなっている。一方、『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（30.8%）が低くなっている。また、上記の加点方法で平均点を算出したところ、『12 地震などの防災体制の整備』（1.30点）、『11 消防・救急体制の整備』（1.17点）、『2 歩道の整備』（1.14点）などが高くなっている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、“満足”上位 10 項目、下位 10 項目とも町民と職員で共通している項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、上位 10 項目では『12 地震などの防災体制の整備』（町民 72.7%、職員 83.3%）、『11 消防・救急体制の整備』（町民 70.1%、職員 80.1%）で、下位 10 項目では『27 地域資源を活用した観光振興』（町民 37.8%、職員 50.0%）、『25 農業振興』（町民 41.2%、職員 53.8%）で、町民に比べ職員が 10 ポイント以上高くなっている。

【性別】

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）上位 10 項目

順位	男性	女性
1	2 歩道の整備 75.0%	2 歩道の整備 76.8%
2	7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み 71.6%	7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み / 12 地震などの防災体制の整備 / 13 防犯対策 74.8%
3	17 地域医療体制 70.4%	17 地域医療体制 72.9%
4	12 地震などの防災体制の整備 70.2%	11 消防・救急体制の整備 72.0%
5	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援 68.4%	14 交通安全対策 71.7%
6	13 防犯対策 68.3%	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援 69.1%
7	11 消防・救急体制の整備 67.9%	9 緑の豊かさと自然環境の保全 68.7%
8	1 道路の整備 / 18 高齢者福祉 66.7%	18 高齢者福祉 67.1%
9		
10	14 交通安全対策 65.8%	

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）下位 10 項目

順位	男性	女性
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み 29.1%	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み 30.4%
2	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み 36.5%	27 地域資源を活用した観光振興 36.1%
3	26 商工業振興 39.2%	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み 37.2%
4	27 地域資源を活用した観光振興 40.1%	28 自治会等地域活動への支援 37.9%
5	23 学習機会の提供 / 28 自治会等地域活動への支援 40.6%	25 農業振興 38.7%
6		26 商工業振興 39.1%
7	25 農業振興 44.3%	23 学習機会の提供 42.2%
8	31 情報開示・情報公開への取り組み 44.5%	31 情報開示・情報公開への取り組み 43.9%
9	30 広報活動・広聴活動 45.7%	30 広報活動・広聴活動 45.6%
10	16 健康づくり対策 48.0%	3 河川・水路の整備 49.7%

性別に“重要”上位 10 項目をみると、“重要”は男性、女性とも『2 歩道の整備』が最も高く、男性 75.0%、女性 76.8%となっている。性別で共通する項目は多いが、順位や割合が異なっており、『13 防犯対策』は男性の 68.3%に比べて女性は 74.8%とやや高くなっている。また、『14 交通安全対策』でも男性の 65.8%に比べて女性は 71.7%とやや高くなっている。

一方、“重要”下位 10 項目では、いずれも『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（男性 29.1%、女性 30.4%）が最も低くなっている。性別で共通する項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、『25 農業振興』は女性の 38.7%に比べて男性は 44.3%と、やや高くなっている。

【年齢別】

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）上位10項目

順位	16～19歳	
1	5 鉄道・バス路線網	90.6%
2	17 地域医療体制	75.0%
3	2 歩道の整備 / 7 ゴみの減量化と	71.9%
4	リサイクルへの取り組み / 9 緑の豊かさ	
5	と自然環境の保全 / 10 不法投棄	
6	防止対策及び美化活動への支援	
7	1 道路の整備	68.8%
8	8 大気・水質などの公害防止対策	
9	12 地震などの防災体制の整備	
10	13 防犯対策 / 14 交通安全対策 / 19 障害者（児）福祉 / 20 子育て支援（児童福祉） / 21 学校教育	

20～29歳		
2	歩道の整備 / 13 防犯対策	72.6%
1	道路の整備	69.9%
20	子育て支援（児童福祉）	68.1%
5	鉄道・バス路線網	67.3%
12	地震などの防災体制の整備	65.5%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	63.7%
10	不法投棄防止対策及び美化活動への支援	63.7%
11	消防・救急体制の整備	62.8%
9	緑の豊かさとは自然環境の保全	61.9%

順位	30～39歳	
1	2 歩道の整備	85.5%
2	13 防犯対策	80.0%
3	12 地震などの防災体制の整備	79.0%
4	7 ゴみの減量化とリサイクルへの取り組み	76.5%
5	/ 14 交通安全対策	
6	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	76.0%
7	17 地域医療体制	75.5%
8	20 子育て支援（児童福祉）	75.0%
9	9 緑の豊かさとは自然環境の保全	74.0%
10	11 消防・救急体制の整備	73.0%

40～49歳		
2	歩道の整備	90.0%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	80.7%
13	防犯対策	77.3%
12	地震などの防災体制の整備 /	76.0%
14	交通安全対策 / 17 地域医療体制	
1	道路の整備 / 10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	74.0%
11	消防・救急体制の整備	72.7%
9	緑の豊かさとは自然環境の保全 / 21 学校教育	70.0%

順位	50～59歳	
1	7 ゴみの減量化とリサイクルへの取り組み	82.0%
2	2 歩道の整備	79.9%
3	11 消防・救急体制の整備	76.3%
4	17 地域医療体制	75.8%
5	12 地震などの防災体制の整備	74.2%
6	18 高齢者福祉	73.7%
7	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	73.2%
8	13 防犯対策	72.7%
9	14 交通安全対策	71.6%
10	9 緑の豊かさとは自然環境の保全	71.1%

60～69歳		
12	地震などの防災体制の整備	76.2%
7	ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	75.8%
2	歩道の整備 / 13 防犯対策	73.5%
17	地域医療体制	73.2%
11	消防・救急体制の整備	71.9%
14	交通安全対策	70.9%
10	不法投棄防止対策及び美化活動への支援	70.2%
18	高齢者福祉	69.2%
9	緑の豊かさとは自然環境の保全	66.2%

順位	70 歳以上	
1	18 高齢者福祉	68.0%
2	17 地域医療体制	64.9%
3	12 地震などの防災体制の整備	63.2%
4	11 消防・救急体制の整備	62.8%
5	2 歩道の整備	59.7%
6	7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	59.3%
7	13 防犯対策	57.6%
8	14 交通安全対策	57.1%
9	16 健康づくり対策	56.3%
10	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	55.8%

年齢別に“重要”上位 10 項目をみると、16～19 歳では『5 鉄道・バス路線網』（90.6%）が、20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳では『2 歩道の整備』（20～29 歳 72.6%、30～39 歳 85.5%、40～49 歳 90.0%）が最も高くなっており、特に 16～19 歳と 40～49 歳では 9 割を超えている。70 歳以上では『18 高齢者福祉』（68.0%）が最も高く、次いで『17 地域医療体制』（64.9%）となっており、いずれも他の年齢にはみられない項目となっている。『13 防犯対策』は年齢が高いほど重要度が低くなる傾向にある。また、『20 子育て支援（児童福祉）』については、16～19 歳、20～29 歳、30～39 歳のみに、『5 鉄道・バス路線網』については、16～19 歳、20～29 歳のみにみられる項目となっている。

【年齢別】

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）下位10項目

順位	16～19歳	
1	27 地域資源を活用した観光振興	18.8%
2	28 自治会等地域活動への支援	37.5%
3	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	40.6%
4	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	43.8%
5	/26 商工業振興	
6	23 学習機会の提供	46.9%
7	16 健康づくり対策	53.1%
8	15 個人情報の保護 / 22 青少年	56.3%
9	の育成 / 31 情報開示・情報公開への	
10	取り組み	

20～29歳	
28 自治会等地域活動への支援	25.7%
31 情報開示・情報公開への取り組み	30.1%
29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	31.9%
27 地域資源を活用した観光振興	33.6%
24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	34.5%
25 農業振興	34.5%
30 広報活動・広聴活動	35.4%
4 下水道の整備 / 23 学習機会の提供	36.3%
26 商工業振興	38.1%

順位	30～39歳	
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	25.0%
2	28 自治会等地域活動への支援	35.5%
3	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	36.5%
4	27 地域資源を活用した観光振興	37.5%
5	25 農業振興 / 26 商工業振興	40.0%
6		
7	3 河川・水路の整備	44.5%
8	30 広報活動・広聴活動	45.0%
9	4 下水道の整備	45.5%
10	23 学習機会の提供 / 31 情報開示・情報公開への取り組み	47.0%

40～49歳	
29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	28.0%
24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	36.0%
28 自治会等地域活動への支援	38.0%
27 地域資源を活用した観光振興	38.7%
26 商工業振興	42.7%
30 広報活動・広聴活動 / 31 情報開示・情報公開への取り組み	43.3%
25 農業振興	44.7%
16 健康づくり対策 / 23 学習機会の提供	47.3%

順位	50～59歳	
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	31.4%
2	28 自治会等地域活動への支援	36.6%
3	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	38.1%
4	27 地域資源を活用した観光振興	40.2%
5	23 学習機会の提供 / 26 商工業振興	41.8%
6		
7	31 情報開示・情報公開への取り組み	42.8%
8	30 広報活動・広聴活動	43.8%
9	25 農業振興	45.9%
10	16 健康づくり対策	53.1%

60～69歳	
29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	30.5%
24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	39.4%
26 商工業振興 / 27 地域資源を活用した観光振興	40.4%
25 農業振興	40.7%
23 学習機会の提供	41.1%
28 自治会等地域活動への支援	46.0%
31 情報開示・情報公開への取り組み	48.0%
30 広報活動・広聴活動	50.3%
6 公園・広場の整備	53.3%

順位	70歳以上		
1	29	男女共同参画社会へ向けた取り組み	29.9%
2	26	商工業振興	31.6%
3	24	スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	32.9%
4	23	学習機会の提供	34.6%
5	27	地域資源を活用した観光振興	36.8%
6	25	農業振興	37.7%
7	6	公園・広場の整備	39.0%
8	20	子育て支援（児童福祉）	42.9%
9	28	自治会等地域活動への支援 /	43.3%
10	31	情報開示・情報公開への取り組み	

年齢別に“重要”下位10項目をみると、16～19歳では『27 地域資源を活用した観光振興』（18.8%）が最も低くなっており、また、他の年齢に比べて割合も低くなっている。20～29歳では2位『31 情報開示・情報公開への取り組み』（30.1%）の割合が、70歳以上では2位『26 商工業振興』（31.6%）の割合が他の年齢に比べて低くなっている。『28 自治会等地域活動への支援』は、年齢が低いほど重要度が低くなる傾向にある。

【地区別】

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）上位 10 項目

金田地区		
順位		
1	2 歩道の整備	76.1%
2	7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み / 12 地震などの防災体制の整備	73.3%
3		
4	13 防犯対策	72.9%
5	17 地域医療体制	72.4%
6	11 消防・救急体制の整備	69.8%
7	14 交通安全対策	69.1%
8	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	68.6%
9	18 高齢者福祉	68.2%
10	9 緑の豊かさと自然環境の保全	67.3%

曾我地区		
	2 歩道の整備	77.2%
	7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	73.9%
	12 地震などの防災体制の整備	73.6%
	13 防犯対策	71.8%
	11 消防・救急体制の整備 / 14 交通安全対策	70.9%
	17 地域医療体制	69.4%
	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	67.9%
	9 緑の豊かさと自然環境の保全	65.5%
	5 鉄道・バス路線網	63.7%

相和地区		
順位		
1	1 道路の整備	74.4%
2	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	72.7%
3	5 鉄道・バス路線網 / 7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み / 11 消防・救急体制の整備 / 17 地域医療体制	71.1%
4		
5		
6		
7	2 歩道の整備	69.4%
8	18 高齢者福祉	68.6%
9	12 地震などの防災体制の整備	66.9%
10	13 防犯対策	62.8%

地区別に“重要”上位 10 項目をみると、金田地区と曾我地区では『2 歩道の整備』（金田地区 76.1%、曾我地区 77.2%）が、相和地区では『1 道路の整備』（74.4%）がそれぞれ最も高くなっている。地区別で共通する項目は多いが、順位や割合の高さは異なっており、相和地区では 7 位『2 歩道の整備』（69.4%）が金田地区（76.1%）、曾我地区（77.2%）に比べてやや低くなっており、10 位『13 防犯対策』（62.8%）も金田地区（72.9%）、曾我地区（71.8%）に比べて低くなっている。また、曾我地区と相和地区では『5 鉄道・バス路線網』（曾我地区 63.7%、相和地区 71.1%）が高くなっており、特に相和地区では高くなっている。

【地区別】

『重要』（「特に重要である」＋「少し重要である」）下位 10 項目

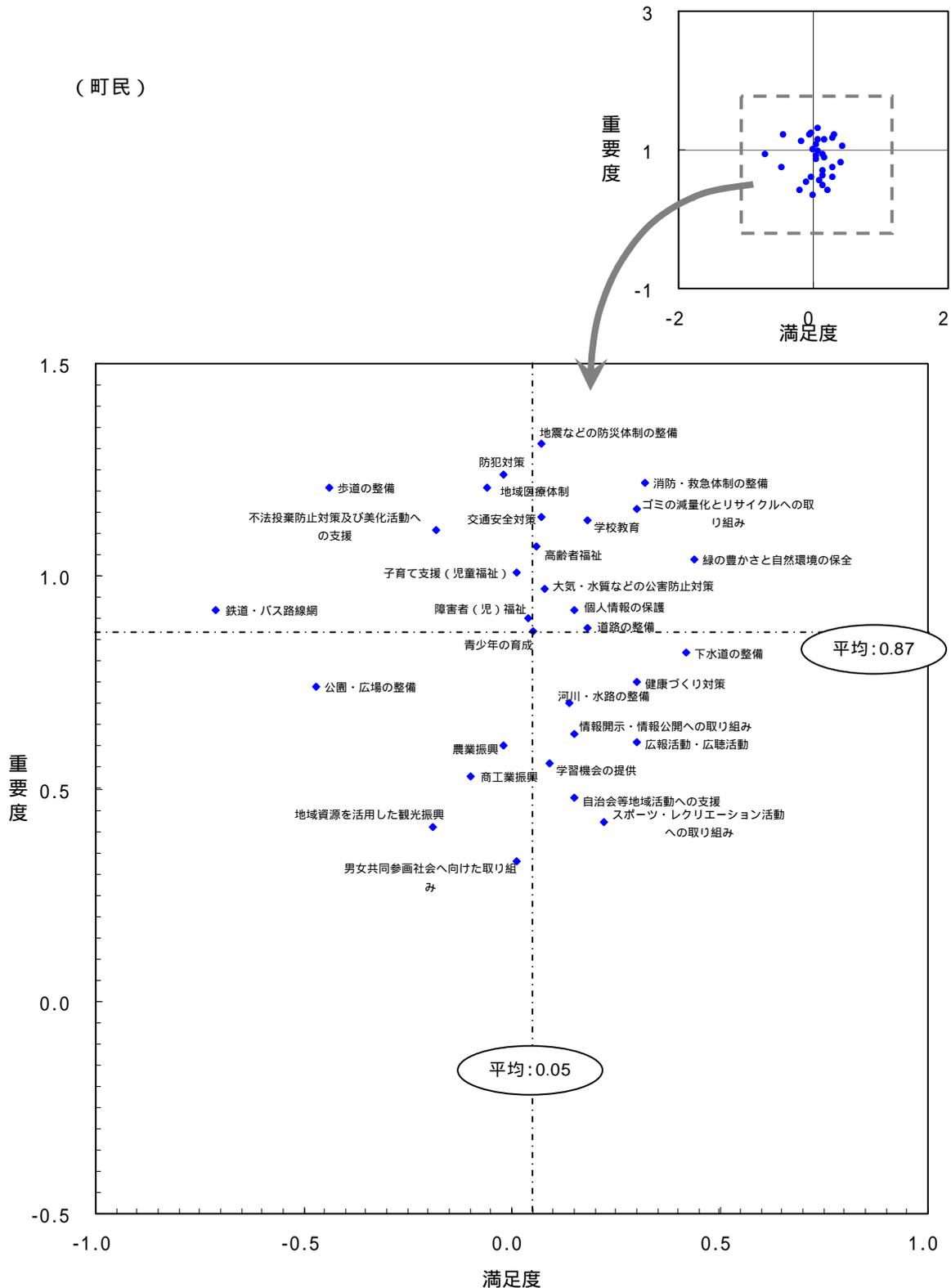
順位	金田地区	
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	30.4%
2	27 地域資源を活用した観光振興	37.1%
3	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	38.1%
4	28 自治会等地域活動への支援	40.2%
5	25 農業振興	40.5%
6	26 商工業振興	41.0%
7	23 学習機会の提供	43.5%
8	31 情報開示・情報公開への取り組み	44.7%
9	30 広報活動・広聴活動	45.7%
10	3 河川・水路の整備	51.4%

曾我地区	
29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	30.9%
24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	34.8%
26 商工業振興	37.8%
27 地域資源を活用した観光振興	38.1%
23 学習機会の提供 / 28 自治会等地域活動への支援	39.0%
25 農業振興	39.6%
31 情報開示・情報公開への取り組み	45.6%
30 広報活動・広聴活動	46.8%
3 河川・水路の整備	49.8%

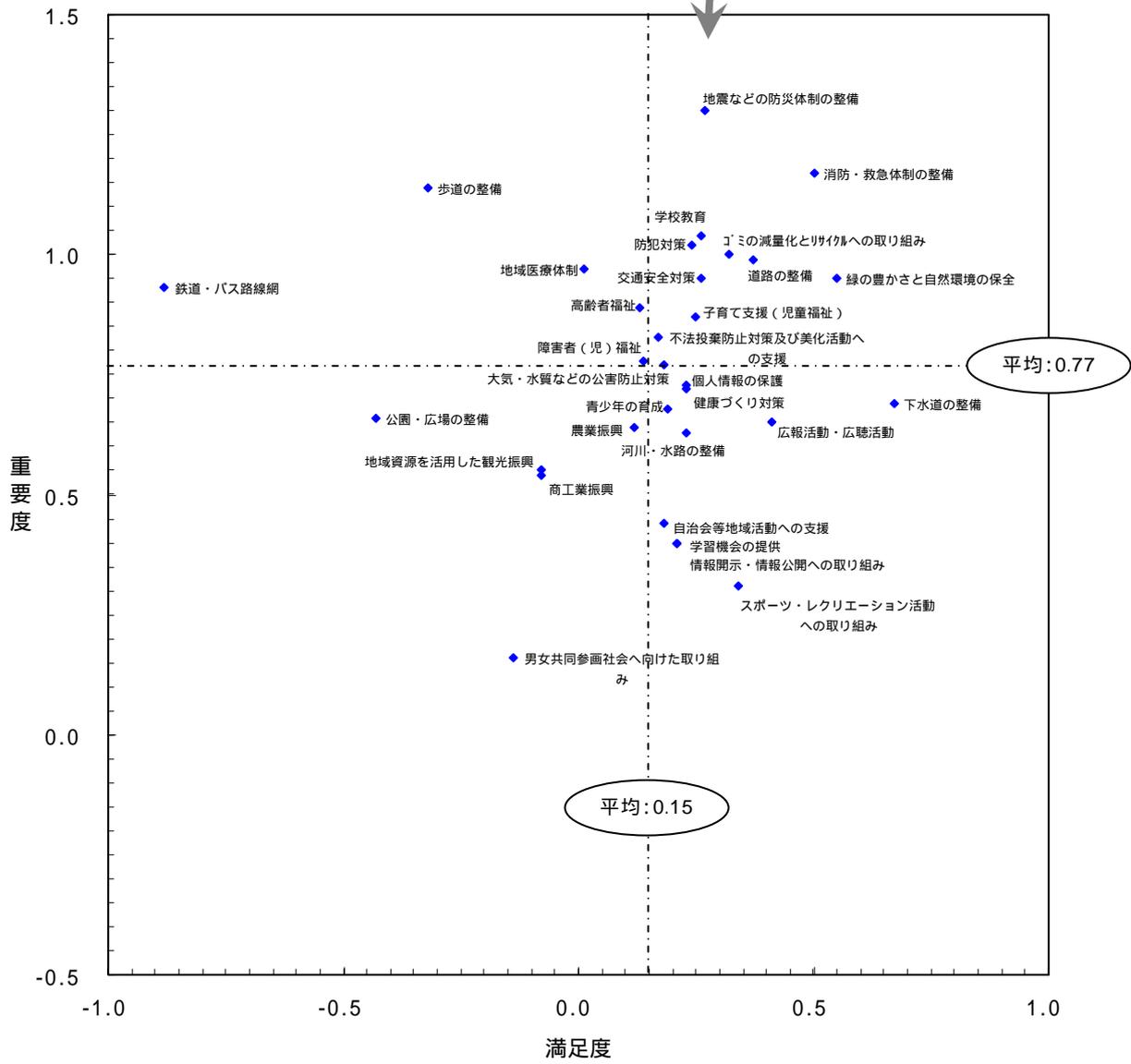
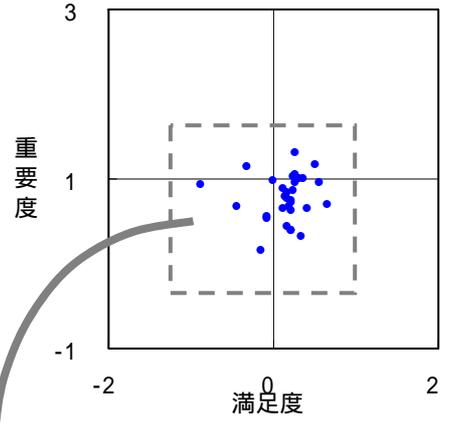
順位	相和地区	
1	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	21.5%
2	26 商工業振興	28.9%
3	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	32.2%
4	23 学習機会の提供	33.1%
5	28 自治会等地域活動への支援	33.9%
6	31 情報開示・情報公開への取り組み	35.5%
7	6 公園・広場の整備	38.0%
8	27 地域資源を活用した観光振興	39.7%
9	30 広報活動・広聴活動	40.5%
10	3 河川・水路の整備	42.1%

地区別に“重要”下位 10 項目をみると、いずれの地区も『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』（金田地区 30.4%、曾我地区 30.9%、相和地区 21.5%）が最も低くなっている。地区別で共通する項目は多いが、順位や割合は異なっており、相和地区では他地区に比べて割合が低い傾向にある。特に『29 男女共同参画社会に向けた取り組み』（金田地区 30.4%、曾我地区 30.9%、相和地区 21.5%）、『26 商工業振興』（金田地区 41.0%、曾我地区 37.8%、相和地区 28.9%）、『31 情報開示・情報公開への取り組み』（金田地区 44.7%、曾我地区 45.6%、相和地区 35.5%）では、10 ポイント弱低くなっている。

満足度得点の平均と重要度得点の平均を下図のように散布図に表わした。図にしたことで、満足度と重要度の関係が読み取れる。図の左上には重要だが不満という項目が位置し、要改善項目といえる。図の右上には重要だが満足している項目が位置し、重点的に維持していく項目といえる。図の右下には重要ではないが満足している項目が位置し、おおむね継続的な展開が望ましい項目といえる。図の左下には重要ではないし不満という項目が位置し、環境の変化や動向を注視していく項目といえる。



(職員)



施策・事業の満足度と重要度の関係について、町民アンケートでは図の左上（重要だが不満）に『2 歩道の整備』、『5 鉄道・バス路線網』、『10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援』など、都市基盤や生活基盤に関する項目や、健康・福祉に関する項目が多く挙げられている。職員アンケートでも同様の傾向で、特に『2 歩道の整備』、『5 鉄道・バス路線網』は町民と職員いずれも満足度が低く、重要度が高い項目となっている。

図の右上（重要だが満足）には、町民アンケートでは『11 消防・救急体制の整備』、『12 地震などの防災体制の整備』、『7 ごみの減量化とリサイクルへの取り組み』など、都市基盤や生活基盤に関する項目や、福祉健康に関する項目が多く挙げられている。職員アンケートでも同様の傾向で、特に『12 地震などの防災体制の整備』、『11 消防・救急体制の整備』は重要度が高くなっている。

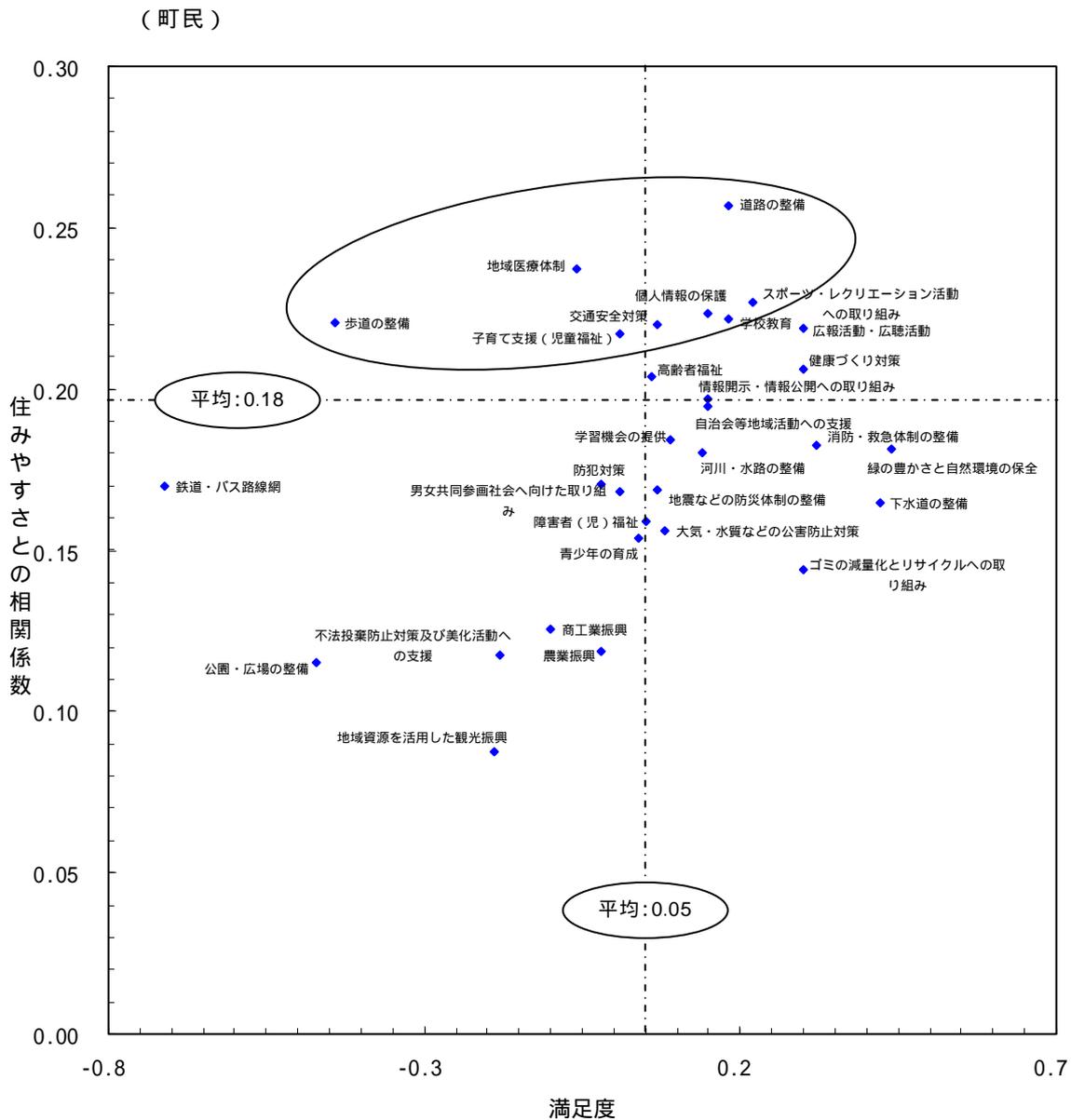
図の右下（重要ではないが満足）には、町民アンケートでは『23 学習機会の提供』、『24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み』、『30 広報活動・広聴活動』など、生涯学習に関する項目や、町民参加に関する項目が多く挙げられている。職員アンケートでも同様の傾向で、特に『24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み』は町民と職員いずれも満足度が比較的高く、重要度は低くなっている。

図の左下（重要ではないし不満）には、町民アンケートでは『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』、『27 地域資源を活用した観光振興』、『26 商工業振興』など、産業に関する項目や町民参加に関する項目が挙げられている。職員アンケートでも同様の傾向で、特に『29 男女共同参画社会へ向けた取り組み』は町民と職員いずれも満足度、重要度が低くなっている。

各項目の満足度得点が、住みやすさとの程度相関関係を持っているかを調べるため、相関係数を算出した。相関係数は1に近いほど、その項目の満足度が住みやすさに対して影響が強いことを示している。つまり、大井町では『1 道路の整備』『17 地域医療体制』、『24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み』などが進むと住みやすさにつながる。

下図は、満足度得点平均と住みやすさとの相関係数の散布図となっている。

図中、上に位置するほど、住みやすさへのプラスの影響が強い項目、右に位置するほど満足度が高い項目であり、満足度が高まることにより住みやすさへのプラスの影響が高まる項目は、左上に位置している。



満足度と住みやすさとの相関係数

		係 数
都市基盤・生活基盤	1 道路の整備	0.26
	2 歩道の整備	0.22
	3 河川・水路の整備	0.18
	4 下水道の整備	0.16
	5 鉄道・バス路線網	0.17
	6 公園・広場の整備	0.12
	7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み	0.14
	8 大気・水質などの公害防止対策	0.16
	9 緑の豊かさと自然環境の保全	0.18
	10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援	0.12
	11 消防・救急体制の整備	0.18
	12 地震などの防災体制の整備	0.17
	13 防犯対策	0.17
	14 交通安全対策	0.22
	15 個人情報の保護	0.22
健康・福祉	16 健康づくり対策	0.21
	17 地域医療体制	0.24
	18 高齢者福祉	0.20
	19 障害者（児）福祉	0.15
	20 子育て支援（児童福祉）	0.22
生涯学習	21 学校教育	0.22
	22 青少年の育成	0.16
	23 学習機会の提供	0.18
	24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み	0.23
産業	25 農業振興	0.12
	26 商工業振興	0.13
	27 地域資源を活用した観光振興	0.09
町民参加	28 自治会等地域活動への支援	0.20
	29 男女共同参画社会へ向けた取り組み	0.17
	30 広報活動・広聴活動	0.22
	31 情報開示・情報公開への取り組み	0.19

31 項目の満足度が各々どのような結びつきを持っているのかを調べるために因子分析を行った。

因子分析とは、多数の質問の中から共通の因子を取り出し、それがどのような因子であるのかを想定する手法である。今回の調査では8つの因子が抽出された。

次の表に示した数値は、それぞれの項目の因子得点であり、この得点の高い質問項目から、そのグループの意味を解釈していく。他の因子に属する項目でも0.4点以上のものは数値を表示している。

31 項目の満足度得点における因子分析（町民）

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8
	安全・安心	町民参加	生涯学習	福祉	生活環境	産業振興	道路・水	外出環境
13 防犯対策	0.726							
12 地震などの防災体制の整備	0.716							
11 消防・救急体制の整備	0.670							
14 交通安全対策	0.635							
17 地域医療体制	0.471							
15 個人情報の保護	0.447							
16 健康づくり対策	0.409							
30 広報活動・広聴活動		0.764						
31 情報開示・情報公開への取り組み		0.736						
28 自治会等地域活動への支援		0.601						
29 男女共同参画社会へ向けた取り組み		0.496				0.416		
23 学習機会の提供			0.755					
22 青少年の育成			0.736					
21 学校教育			0.693					
24 スポーツ・レクリエーション活動への取り組み			0.555					
19 障害者（児）福祉				0.826				
18 高齢者福祉				0.752				
20 子育て支援（児童福祉）				0.618				
9 緑の豊かさと自然環境の保全					0.719			
8 大気・水質などの公害防止対策					0.666			
7 ゴミの減量化とリサイクルへの取り組み					0.555			
10 不法投棄防止対策及び美化活動への支援					0.540			

	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6	因子 7	因子 8
	安全・安心	町民参加	生涯学習	福祉	生活環境	産業振興	道路・水	外出環境
26 商工業振興						0.741		
27 地域資源を活用した観光振興						0.716		
25 農業振興						0.629		
3 河川・水路の整備							0.710	
4 下水道の整備							0.696	
1 道路の整備							0.632	
6 公園・広場の整備								0.763
5 鉄道・バス路線網								0.609
2 歩道の整備							0.423	0.516

第 1 因子は「安全・安心」

第 4 因子は「福祉」

第 7 因子は「道路・水」

第 2 因子は「町民参加」

第 5 因子は「生活環境」

第 8 因子は「外出環境」

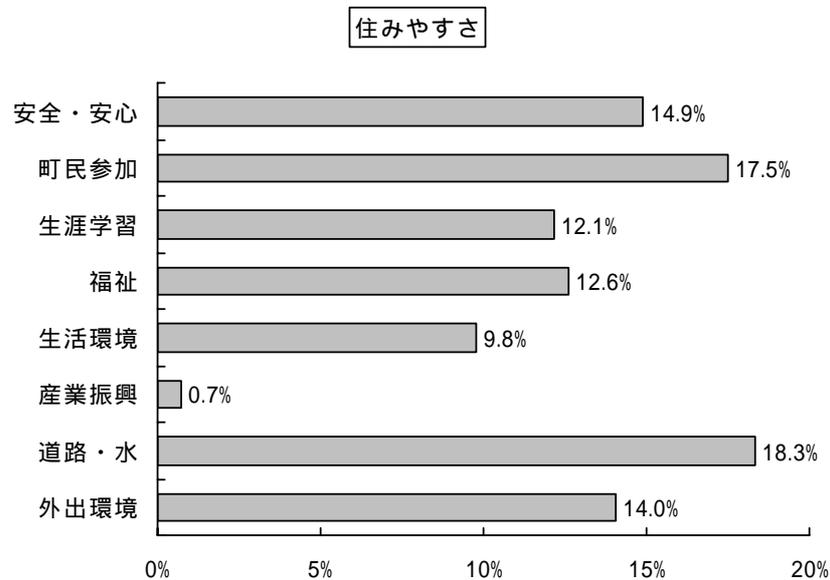
第 3 因子は「生涯学習」

第 6 因子は「産業振興」

と解釈した。

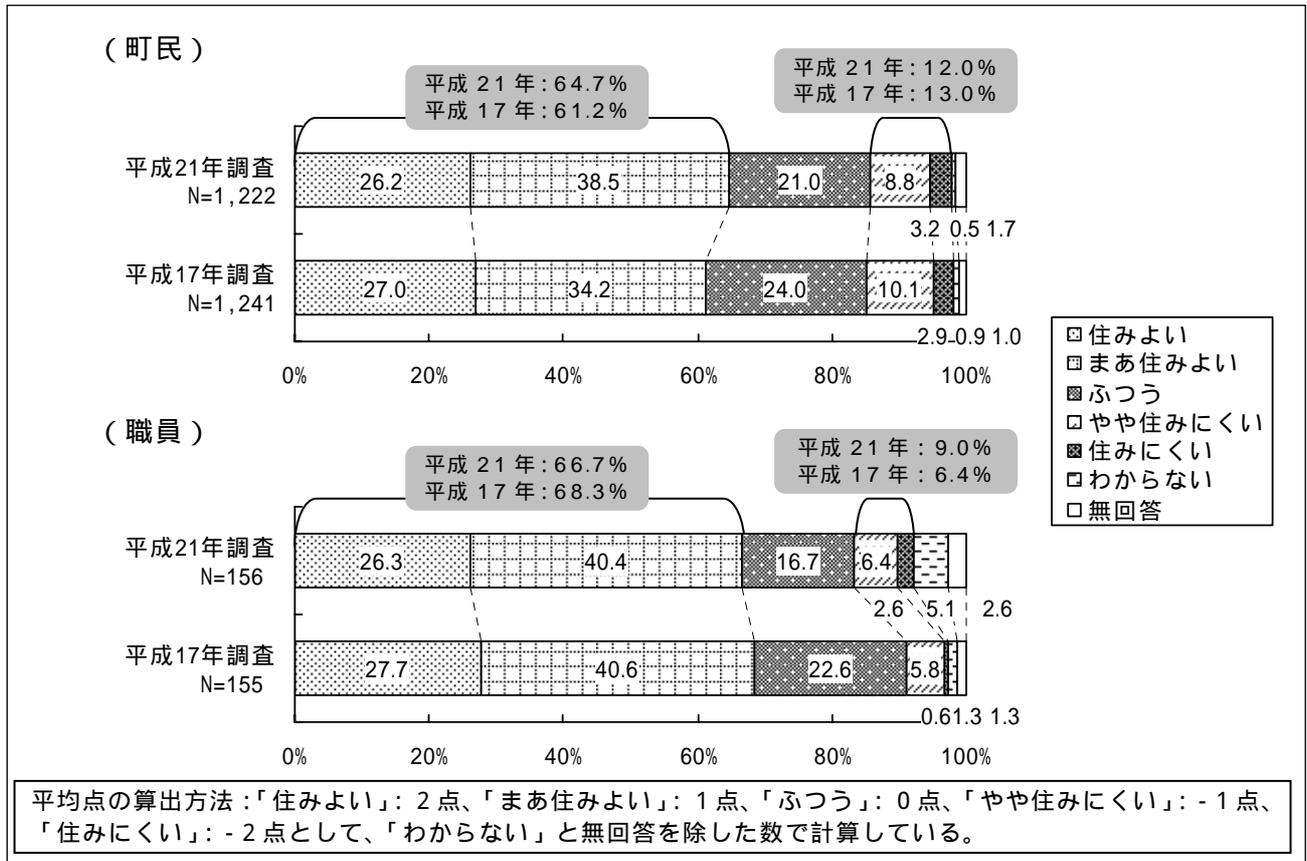
重回帰分析では、これら因子分析の結果抽出された8つの因子と暮らしやすさとの関係を見ることができる。

暮らしやすさに対して、8つの因子の中で第7因子の「道路・水」が、最も与える影響が大きいという結果になった。しかし、影響力が突出しているわけではなく、住みやすさの向上のためには、施策全般の推進が必要となっている。



大井町の住みやすさ

問 25 あなたにとって大井町は、住みよいところですか。



大井町の住みよさは、町民アンケートでは「まあ住みよい」が38.5%と最も高く、「住みよい」(26.2%)と合わせると64.7%となっており、平成17年調査の61.2%をわずかに上回っている。

職員アンケートでは、「まあ住みよい」が40.4%と最も高く、「住みよい」(26.3%)と合わせると66.7%となっており、平成17年調査に比べ大きな変化は見られない。一方、「やや住みにくい」(6.4%)と「住みにくい」(2.6%)を合わせると9.0%と、平成17年調査の6.4%をやや上回っている。

町民アンケートと職員アンケートを比較してみると、「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせた割合に大差はみられない。

【属性別住みやすさ得点平均】

	全体	男性	女性	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	金田地区	曽我地区	相和地区
町民	0.77	0.81	0.74	0.81	0.54	0.58	0.81	0.79	0.84	0.94	0.81	0.74	0.62
職員	0.88	0.93	0.80		0.41	0.78	1.06	1.39	-				

職員には居住地区を聞く問がなく、年齢を聞く問では16～19歳と70歳以上の回答者がいない。

職員の60～69歳は回答者が2名のため公表しない。

上記の加点方法で平均点を算出したところ、町民アンケートでは0.77点、職員アンケートでは0.88点と職員のほうがやや高くなっている。

性別にみると、町民アンケート、職員アンケートともほぼ同様の傾向で、女性より男性の点が高くなっており、いずれも町民より職員で点が高くなっている。

年齢別にみると町民アンケート、職員アンケートとも年齢が高いほど点が高くなる傾向で、特に職員の50～59歳（1.39点）、40～49歳（1.06点）はいずれも1点を超えている。また、町民でも70歳以上（0.94点）は1点に近く、「住みよい」や「まあ住みよい」が高くなっていることがうかがわれる。

地区別にみると、金田地区（0.81点）が最も高く、次いで曽我地区（0.74点）となっている。

【属性別】

（単位：％）

		全体	1位	2位	3位
全体		N=1,222	まあ住みよい 38.5	住みよい 26.2	ふつう 21.0
性別	男性	N=564	まあ住みよい 40.2	住みよい 26.4	ふつう 20.4
	女性	N=654	まあ住みよい 37.2	住みよい 26.0	ふつう 21.6
年齢別	16～19歳	N=32	住みよい 37.5	ふつう 28.1	まあ住みよい 18.8
	20～29歳	N=113	まあ住みよい 27.4	住みよい/ふつう	24.8
	30～39歳	N=200	まあ住みよい 41.5	住みよい/ふつう	19.5
	40～49歳	N=150	まあ住みよい 44.7	住みよい 26.0	ふつう 16.7
	50～59歳	N=194	まあ住みよい 47.4	ふつう 23.2	住みよい 19.6
	60～69歳	N=302	まあ住みよい 40.7	住みよい 26.5	ふつう 18.9
	70歳以上	N=231	住みよい 36.4	まあ住みよい 29.9	ふつう 23.4
地区別	金田地区	N=761	まあ住みよい 39.6	住みよい 27.1	ふつう 20.5
	曽我地区	N=333	まあ住みよい 37.8	住みよい 26.1	ふつう 20.1
	相和地区	N=121	まあ住みよい 34.7	ふつう 28.1	住みよい 19.8

性別にみると、大差はみられない。

年齢別にみると、16歳～19歳と70歳以上では「住みよい」（16～19歳37.5%、70歳以上36.4%）が最も高くなっている。

地区別にみると、1位「まあ住みよい」はすべての地区で共通となっているが、相和地区では2位「ふつう」（28.1%）、3位「住みよい」（19.8%）となっており、全体の傾向と比べると順位が逆転している。

住みにくい理由

【問 25 で 4 または 5 と答えた方におたずねします。】

問 25 - 1 やや住みにくい、住みにくいとした理由は何ですか。具体的にお書きください。

大井町の住みにくい理由は、町民アンケート、職員アンケートとも同様の傾向で、「公共交通が不便である」が最も多く挙げられている。次いで「道路や公園などの都市基盤の整備が不十分」、「買い物、通院などの日常生活が不便である」が多くなっている。町民アンケートでは他に、「土地に先住していた人との人間関係がうまくいかない」なども挙げられている。

詳細結果は資料編を参照

自由意見

【大井町のまちづくりについて、ご意見、ご要望がありましたらご自由にお書きください】

まちづくりについての自由意見は、町民アンケートでは「全体イメージ」、「福祉健康」、「教育文化」、「都市整備」、「公共交通」、「産業振興」、「生活環境」、「ごみ」、「行財政」、「住民参加」、「その他」に概ね分類できる。主な意見は以下のようになっている。

全体イメージ	安全なまちづくり 緑の多い町 安心して暮らせる町
福祉健康	保育所の充実 検診機会の充実 コミュニティについて
教育文化	ひょうたん祭りについて 学校の児童数について
都市整備	公園・運動場の充実 道路・歩道の整備 トーヨーボウル跡地について
公共交通	鉄道、バスの路線増強 低料金化
産業振興	農業支援 商業施設誘致 企業誘致
生活環境	子供の登下校時の安全と防犯対策について 防犯カメラの設置
ごみ	ごみの出し方について ごみ置き場について
行財政	住民税について 役場職員について 合併について
住民参加	花フェスティバルについて 町民体育大会について ボランティアについて

職員アンケートでは「全体イメージ」、「福祉健康」、「教育文化」、「都市整備」、「公共交通」、「産業振興」、「行財政」、「住民参加」、「その他」に概ね分類できる。主な意見は以下のようになっている。

全体イメージ	住みよい町 自然に恵まれた町 豊かで差別のない町
福祉健康	コミュニティについて
教育文化	祭りについて
都市整備	酒匂川の河川整備 公園の整備
公共交通	鉄道の利便性
産業振興	企業誘致について 土地利用について
行財政	予算執行について 合併について
住民参加	住民参加の機会の豊富さについて

「まちづくりについての自由意見一覧」は別途資料編にて整理する。